339

939

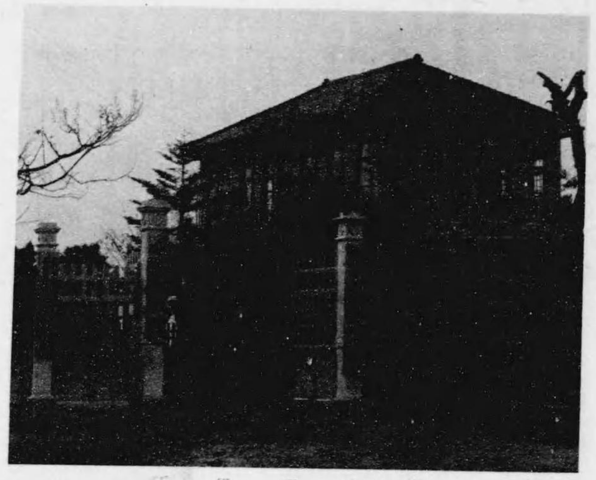
始

岩波郡案内

339-939

武藏波郡案內

七郎



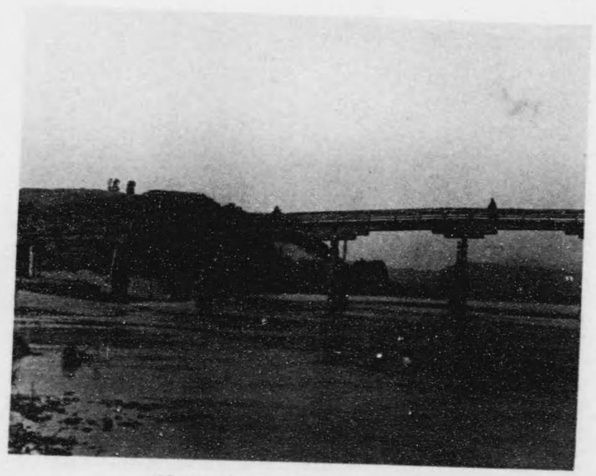
紫・波郡役所

日詰町役場

日詰警察署

日詰尋常高等小學校

紫波郡業講習所



志波城趾と紫波橋

樹間の院源勝

[illegible]

岩木山登山図

鶴の舞橋

弊懸の瀧

岡ヶ陣

志波の大瀑

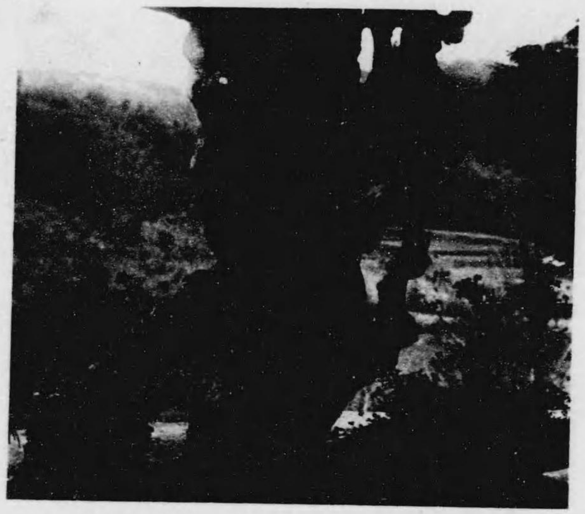
志賀理和気神社

堤の石赤

諏訪湖

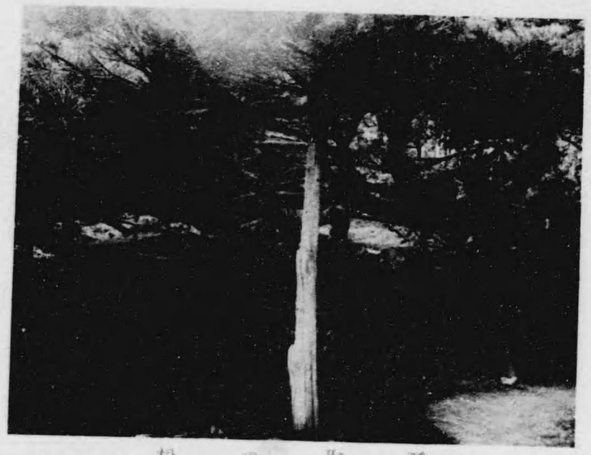
是信房の墓

佐比内の岩窟



楓の王山

社神阪八



耳取の松

址城波志

本書編纂の趣旨

曩に岩手縣教有會紫波郡部會は紫波郡史蹟及天然記念物の一書を編纂したりしが出版部數限りあるを以て廣く希望者に頒つこと能はずと聞く同會は更に紫波郡誌の編纂を企て目下調査に從事すれども之が出版は數年の後に待たざるべからざるが如くなれば刻下の需求を充たし得べきにあらず時に予は商舗を開きてより玆に數年幸に大方の眷顧を蒙り規模擴張を要する好況に向ひたるを以て客年地を相して新に店舗を設營せり是れ予が業務伸展の一階段として心竊に記念の意を表せんことを企つるに至りし因由とす而して昨年の秋宮廷に於て立儲の盛儀を行はるゝに逢ふ何等の幸ぞ皇室の繁榮國運の隆昌祝すべく慶すべき此の年に於て商舗新設の功を竣ふるを得たれば是に於て所期の貫徹を圖らんとするの念益々固く爾來百方考慮する所ありしが本書の編纂は最も好箇の記念たるに想到するに及び一日も速に之を事實にせんとするの情抑ふべからず乃ち急遽　が編纂に着手一日夜奮勵　て頃日業を卒へ以て梓に上するを得たり若し夫れ紫波郡史蹟及天然記念物を手にし難く而して紫波郡誌の編纂未だ成らざるの時本書

が幸に江湖君子の座右に侍し目下の不便を補ひ本郡の栞たる任務を盡すことを得ば予の素志此に達成するを得たるものにして又諸彦の年來賜ふ所の深厚なる恩眷に對し聊酬ゆる所あるべきを喜ぶのみ冀くは微衷を諒とせられんことを

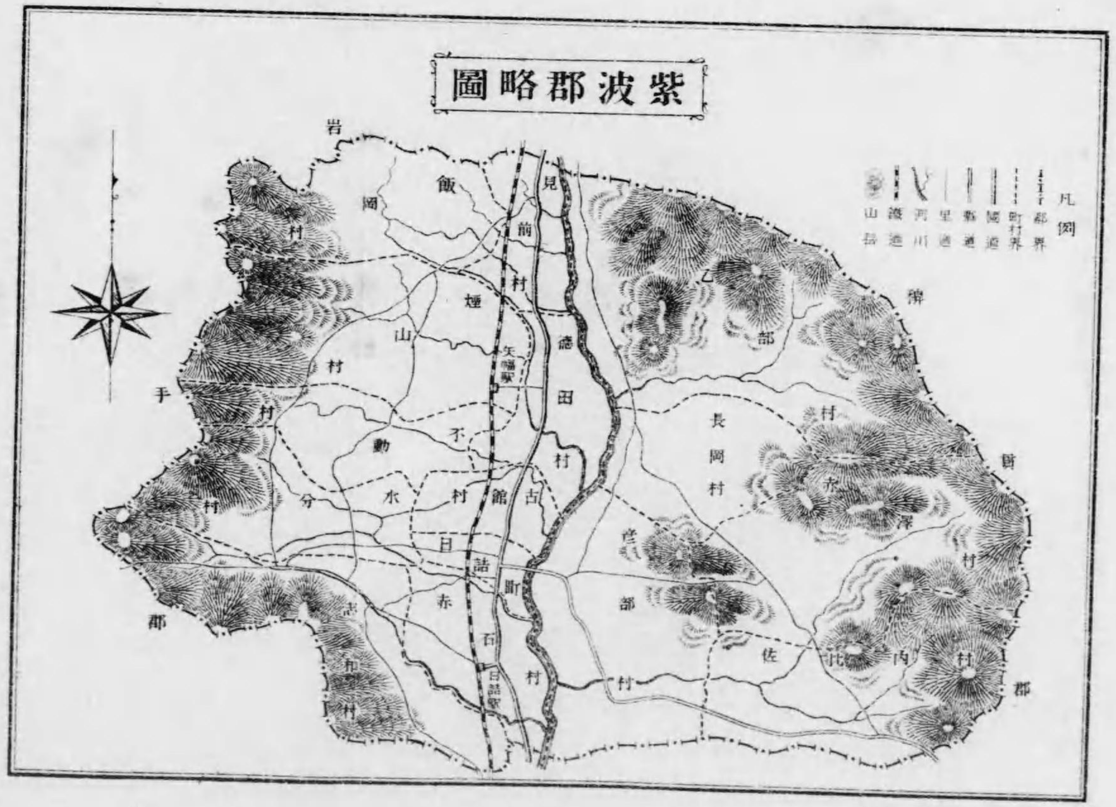
本書は紫波郡史蹟及天然記念物の記事を轉載せるものあれども町村の狀況の如きは新なる調査に係り名勝舊蹟の如きも新に附加せるもの多し予は固より一介の商賈に過ぎず識淺く文筆の才あるにあらざれば杜撰粗漏の譏を免れざるべし殊に史實に關するものゝ如きは口碑傳說深く究めずして採錄せるものあり識者幸に示敎を賜はるあらば欣幸之に過ぎざるなり

末尾に數種の一覽表を添付せるは聊內容の不備を補はんとの微意にして又公務に從事する者及營業者等の芳名錄を附屬せるは諸般の利便あるべきを信じたればなり

本書編纂に際し知友豐山庄一郎君其の蒐集せる資料を提供せられ多大の援助を與へられたり特に一言を附記して芳志を謝す

大正六年三

菅原七郎識



のゝ如きは口碑傳說深く究めずして採錄せるものあり識者幸に示教を賜はるあらば欣幸之に過ぎざるなり

末尾に數種の一覽表を添付せるは聊内容の不備を補はんとの微意にして又公務に從事する者及營業者等の芳名錄を附屬せるは諸般の利便あるべきを信じたればなり

本書編纂に際し知友豐山庄一郎君其の蒐集せる資料を提供せられ多大の援助を與へられたり特に一言を附記して芳志を謝す

大正六年三

菅原七郎識

紫波郡案内目次

一　沿革……一
二　地勢……二
三　氣候……三
四　戸口……三
五　交通……三
六　産業……五
農業……五
畜産業……七
林業……七
鑛山業……八
商業……九

七　教育……一〇
小學校……一〇
實業補習學校……一〇
學齡兒童保護會……一〇
教育會……一〇
青年團體……一一
圖書館……一一
八　町村の概況……一二
日詰町……一二
古館村……一三
德田村……一四
見前村……一五
飯岡村……一六

煙山村……一七
不動村……一八
水分村……一九
志和村……二〇
赤石村……二一
彦部村……二二
佐比内村……二〇
赤澤村……三一
長岡村……三二
乙部村……三三
九　名勝舊蹟……三五
日詰町……三五
御畫休所跡……三五

勝源院の槲樹……三五
半水翁の句碑……三六
觀音の碑……三六
古館村……三七
志波城址……三七
走湯神社……三九
高水寺址……三九
矢立の槻……四〇
吉兵衞館址……四〇
承慶橋跡……四一
德田村……四二
御小憩所跡……四二
德丹城址……四二

高田館址……四二
國道並木松……四三
見前村……四三
見前城址……四三
北野神社……四三
宮崎の杉……四三
大國神社……四三
一里塚……四三
飯岡村……四四
飯岡館址……四四
煙山村……四五
南昌山……四五
煙山館址……四五

磐懸の瀧……四五
神居谿……四六
不動村……四六
岩清水館址……四六
不動尊……四六
傳法寺館址……四七
白澤館址……四七
谷地館址……四八
森の櫃木……四八
本淨寺の杉……四八
水分村……四八
志和稲荷神社……四八
水分神社……四九

東根山……五〇
袖瀧……五〇
圓門寺の立石……五〇
陣ヶ岡……五〇
月の輪形……五一
志和村……五一
八幡神社……五二
大瀑……五二
新山神社……五二
吉兵衞館址……五四
黄金堂……五四
赤石村……五四
志賀理和氣神社……五四

赤石の櫻……五五
五郎沼……五五
季衡の墓……五五
藥師神社……五五
箱清水……五五
小路口の松……五六
大銀の栂……五七
數馬の墓……五七
新行坊の舊跡……五七
牡丹野……五八
平澤館址……五八
彦部村……五九
是信房の墓……五九

彦部館址……六〇
大正園(大卷館址)……六〇
堤島神社……六〇
星山館址……六一
犬吠森館址……六一
佐比内村……六一
佐比内館址……六一
熊野神社……六一
岩窟……六二
赤澤村……六二
赤澤館址……六二
白山神社……六二
三石の岩窟……六二

山王の楓……六三
青麻神社……六三
青麻の胎内くぐり……六三
長岡村……六三
八坂神社……六四
長岡城址……六四
耳取の松……六五
江柄館址……六五
栃内館址……六五
乙部村……六五
乙部館址……六五
菖蒲田の樋……六六
野屋敷の梅……六六

大萱生館址……六六
黒川館址……六七
法領の「タモ」……六七
陣　場……六七
高　陣……六七
手代森館……六七
附　表
神社一覽表……六九
寺院一覽表……七二
青年團體一覽表……七五
參考表
町村吏員……七七
小學校教員……七八

紫波郡案内目次 終

縣會議員……八〇
郡會議員……八〇
郡役所……八一
蠶業講習所……八一
盛岡區裁判所郡山出張所……八一
日詰警察署……八二
郵便局長……八二
營業者人名表……八二

紫波郡案内

一　沿革

本郡の稱は昔時志波の字を用ふ（續日本記寶龜八年の條）又子波に作る（同書延暦八年の條）弘仁二年正月本郡及稗貫和賀の三郡を置き斯波の字を用ふ（日本逸史）又斯和に作る（陸奥話記）天文中紫波に改む（領主斯波孫三郎詮眞の歌に けふよりは紫波と名づけん此川び石に打つ波紫に似て……斯波家譜）延暦二十年坂上田村麿蝦夷を平げ同二十二年志波城を築く弘仁二年本郡及稗縫（稗貫和我（和我）の三郡を置く蓋し是れ國府の所轄に歸するの始とす永承中安倍頼時六郡を横領す本郡其の一なり康平五年源頼義討ちて之を亡す以來藤原秀衡前後四代六郡を管領す本郡亦其の内に屬し秀衡の族樋爪太郎俊衡、樋爪五郎季衡の所領たり文治五年八月源頼朝泰衡を亡す俊衡、季衡亦降る延元元年陸奥國司斯波伊豫守家兼の族斯波某に屬せしが天正十九年九月豊臣氏南部大膳大夫信直の封内に屬せしむ寛文四年大膳大夫

重信本郡七十五村の内土館、稲藤、上平澤、片寄、の四箇村を分ちて其の弟南部左衞門尉直房に加封す而して其の七十一村は明治元年十二月直隷となり同二年七月盛岡藩に屬し三年八月盛岡縣に屬し又四村は二年六月八戸藩に屬し四年七月八戸縣に屬し九月弘前縣に屬す（同年同月縣名を青森縣と改む）十一月全郡更に盛岡縣の所轄となり五年正月縣名を岩手と改めらる爾來分合等あるなし。

二　地勢

本郡は岩手縣の中央部に位し稗貫岩手の兩郡に圍繞せらる東西十一里南北四里二十四町面積二十六方里餘縣内最小の郡にして日詰、古館、德田、見前、飯岡、煙山、不動、水分、志和、赤石、彥部、佐比内、赤澤、長岡、乙部の一町十四箇村に區劃せらる。北上川は郡の中央を北より南に貫流し其の東部は山地多く西境には高倉山、南昌山、東根山等連亘起伏すれども其の中間北上川流域は概ね平坦にして肥田沃野相連り遠く村落を望む。

三　氣候

地域の狹小なると地勢の多樣ならざるとに由り氣候は概して一樣なり。試に日詰町に於ける觀測の狀況を擧ぐれば溫度（攝氏）は最高三十五度最低十六度霜は初十月二十九日終五月一日雪は初十一月二十九日終四月七日なりとす。

四　戸口

本郡は面積二十六方里にして縣下郡中最小の地積なりと雖其の戸數六千三百七人口四萬六千百六十一にして一戸平均の人口七、三二人一方里の人口平均一千七百二十六人之を本縣の平均一戸當六、九二人に比すれば〇、四〇人一方里八百十人に比すれば九百十六人を增す以て人口の密なるを知るべし。

五　交通

國道は郡の中央を南より北に貫通し其の延長五里七町三十九間とす

縣道は日詰町より分岐し彥部、佐比内の兩村を經稗貫郡に入る遠野街道にして其の延長三里三十一町なりとす

里道の改修に關しては本郡の最も苦心する所にして明治三十四年以來郡費を支出し改修に勗めつゝあり其の重なるものは四線路あり盛岡市を基點とし岩手郡を經本郡乙部村に入り長岡、赤澤の兩村を經て佐比内村に至りて縣道遠野街道に接續する舊釜石街道を第一とし之に亞ぐは川久保線にして見前村に於て國道より分岐し飯岡、煙山、不動、水分の四箇村を經志和村に通ず長岡線は彥部村に於て縣道より分岐し長岡村に至りて舊釜石街道に連絡し上平澤線は日詰町に於て國道より分岐し赤石村を經て志和村に通ず其の他は或は日詰町を基點とし或は國道縣道より分岐して郡内各町村を連絡し今や其の延長三十里餘に達し交通上些の遺憾なし

鐵道は郡の中央を南北に縱貫せる國有鐵道にして稗貫郡より入り日詰矢幅の二驛を經て岩手郡に入る此の哩數は稗貫郡石鳥谷驛より日詰驛迄三、三同驛より矢幅驛迄五、二

同驛より岩手郡仙北町驛迄五、二同驛より盛岡驛迄一哩餘とす

郵便局は日詰、德田、矢幅、志和、乙部の五箇所に設置せられ日詰郵便局及日詰、矢幅の兩驛に於て電信を取扱ふ

其の他日詰町より北は盛岡市に南は花卷町に又日詰驛より志和村に乘合馬車の便あり

六　產　業

○農業　面積僅に二十六方里に過ぎざれども水田五千六百九十町二段歩畑四千五百八十八町四段歩を算し之れを耕作する農民二萬人ありて五千の牛馬を使役す氣候は概して溫暖なるを以て農耕に適し豐田沃地遠く連り農產物總額實に百六十三萬三千七百六圓にして本郡生產力の八分を占む

耕地整理は日詰町及煙山村にて施行し其の整理段別八十五町八畝歩整理後の段別九十三町八段歩にして八町七段二畝歩の增歩を生じたり其の成績概して良好なりといふ

○農會　系統的に設立せる農業の保護奬勵機關として町村農會十五郡農會一を有す町村

農會の重なる事業は大豆大麥蘭草等の試作、桑園の經營、撰種、病蟲害豫防、馬耕の奬勵農事視察等にして郡農會にては馬耕奬勵堆肥製造奬勵稻水組合設置奬勵作物病蟲害豫防驅除品評會及講習會の開催農事視察疊表製織奬勵蘭草栽培實習節合草履の製造傳習等の事業を實施しつゝあり

紫波郡地主會　農事の改良發達を圖り地主小作人相互の利益を增進するを以て目的とし大正三年四月創設せり

現在會員は百二十三人にて本郡内に於て地價金二千圓以上の土地を所有する者を以て組織す

本會の事業を擧ぐれば稻種の改良並播種及挿秧期を適切ならしめ乾燥調製を正確ならしむること肥料の改良及施肥法の改良制限外家副業の奬勵小作人保護の方法を講ずること功勞者善行者を旌表すること講習會及品評會を開催すること等なりとす

紫波郡蠶業講習所　蠶業の開發及技術者養成の目的を以て明治四十一年四月日詰町に設置し學理の研究と共に必要なる各種の試驗を行ひ又蠶種の製造及配付を實施し斯業

の改良發達に努めつゝあり

館舍は從來民家を充用し一たび赤石村に移轉したりしも日詰町に復歸し大正二年現在地をトして新築工事を起し翌年竣工を告ぐ本館の外寄宿舍、蠶室、剉桑室及貯桑室等の設ありて設備完きを得たり

修業年限は本科二箇年實習科七箇月にして創立以來卒業者數百二人現在生徒數四十五人とす

畜産業　本郡は馬匹五千七百牛匹百十を有し農耕業に使用する傍繁殖方法を講じ一箇年の掫賣二歳馬匹四百八十頭此の產額二萬四千二百圓牛約十五頭此の產額六百圓なり之に豚牛乳家禽鷄卵等を合して其の產額五萬六千三百圓を算す

種牡馬種付の期節に至れば赤澤村に縣有洋種馬種付所又赤石村に岩手種馬種付所の出張所開始せらるゝを以て種牡馬種付上頗る便宜を得るに至れり加之各村に盛岡產馬組合有種牡馬を配置しあるを以て種付上一層便宜なりとす

林業　本郡林產物は其の產額七萬二千五百二十五圓にして重なる產物を丸及角材とし

之に亞ぐを薪炭石灰挽材等とす石灰は年産額五十九萬七千六百貫此の價額一萬五千圓にして佐比内赤澤兩村より產し本郡の特產たり

鑛山業　目下採掘に係る鑛山を表示すれば次の如し

町村名	名稱	種類	坪數	鑛山主	鑛山主住所
志和村	黑森	滿俺	三五、七〇〇坪	萬石六太郎	日詰町
赤澤村	山屋	鐵	二〇、〇七〇	河村隈太郎	盛岡市
同		金	一五九、八八五	竹村治左衛門	仙北郡
同		金	三八九、〇九〇	松下軍治	東京市
乙部村	大萱生	金	三二〇、一〇〇	村上鑛業合資會社	同上
長岡村	大平	金	二一四、〇四八	福澤平太郎	同上

鑛山の重なるものは乙部村大萱生金山にして大正四年中の產額は金三十八貫三百七十二匁金鑛二百十一萬四千九百六貫とす金鑛は矢幅停車場迄約五哩の鐵索にて搬出し同驛より茨　縣日立鑛山に送りて精錬を加ふ

試掘中なる鑛山は乙部村地內三箇所長岡赤澤村地內二箇所赤澤村地內一箇所佐比內村地內二箇所志和村地內一箇所不動煙山水分村地內一箇所佐比內赤澤地內二箇所とす

商業　本郡は北は盛岡市に南は花卷町に近接せるを以て顧客を此の兩地に奪ばれ爲に本郡商業に影響すること大にして其の發達著しからざるは甚だ遺憾なりとす

本郡商業戶數は專業二百四十二戶兼業二百四十一戶にして商店の接續して市場を形成せるは日詰町及志和村上平澤の一部なりとす

郡內銀行、會社は其の數十一にして資本總額二萬七千二百五十圓拂込額二萬四千七百五十圓に達し經濟界に益する所尠からず

產業組合　由來本郡は資金乏しきを以て本郡當局は夙に產業組合の設立を奬勵し以て產業の發達を促せり今や之が設立を見ざる町村なく其の數十七ヶ組合を現存するに至れり

以上は產業及產業機關の梗概に過ぎず其の他機業工場三ヶ所煉瓦工場二ヶ所酒造場一ヶ所金鑛精錬所一ヶ所繭乾燥場五ヶ所あり

七　教育

小學校　尋常小學校五校尋常高等小學校十六校計二十一校にして外に尋常高等小學校分教場五ヶ所あり學級數は百三十一にして內尋常科百十五高等科十六在籍兒童は尋常科六千百二十三人高等科六百四十六人なりとす學齡兒童數は男四千六十一人女三千八百三人計七千八百六十四人內就學兒童數男四千三十八人女三千七百六十人計七千七百九十八人不就學兒童數は男二十三人女四十三人計六十六人就學歩合は男九九、四三女九八、八八計九九、一六にして年々就學歩合の向上を見るに至れり

實業補習學校　其の數十四校ありて何れも小學校に附設せり職員は小學校職員より兼任し冬季夜間教授を行ふ

學齡兒童保護會　各町村にて設置し其の數十五にして現在資金千百拾圓を有す貧窮兒童の保護に活動しつゝあり

教育會　岩手縣教育會紫波郡部會は現在會員二百八十三人あり教育の普及發達を圖る

を以て目的とし實施事業は講習會及通俗講演會並青年大會の開催優良兒童の表彰兒童一蛾養蠶繭及兒童成績品一坪農園生產品等の品評會教員の考案製作品展覽會の開催郡誌編纂研究會の開催等にして本郡教育上に裨益する所大なりとす

青年團體　青年團體の設立夙に各町村に普及せるは本縣中蓋し本郡を第一に擧げざるべからず現在其の數二十九會員二千九百九十一人あり實施事業を擧ぐれば各種の講習講演會の開催農產品品評會里道修繕指導標の建設田及畑作の試作地設置養鷄養鯉養豚事業夜學會運動會共同貯金の實施等にして之が活動に關しては當局の指導甚だ努め明治四十四年度以來郡費より每年百圓乃至百五十圓の奬勵金を支出し優良團體に交付しつつあり今や各團競うて改善發達に努力し美蹟を收むるもの少からず

本年岩手縣青年團體聯合會の設立せらるるや本郡に同團體の紫波郡部會の組織を見るに至れり

圖書館　文崎文庫は見前村宮崎求馬氏の經營にかゝるものにして大正四年十月御卽位大典記念事業として公開せり文庫は自宅內一室を以て之に充て希望者に對し隨時縱覽

の便を與ふ

八町村の概況

日詰町

日詰町は紫波郡の殆ど中央に位し國道に沿ふ東は北上川を隔てゝ彦部村に對し南は赤石村に西は水分村に北は古館村に接し東北鐵道線は近く國道の西を通じ北ト川東境を限りて南下す地勢は國道に依り東西二部に分たる其の以西は田畑多けれども地味粗惡なり其の以東北上川に沿ひたる地は稍肥沃にして多く桑樹栽培せらる

面積は僅に〇、六〇方里にして本郡中最小の地積を占め日詰新田及櫻町の二大字より成る櫻町は赤石村に接したる小部分にて同町の大部分は日詰新田なり

戸數三百五十八戸人口二千百三十二人あり耕地は田八十五町一反歩畑七十三町三反歩山林は十三町七反歩原野十二町三反歩にして外國有原野一反六畝歩とす

生業の主なるものは商業なりと雖其の數僅に百十一戸農業養蠶業之に亞ぐ近年蠶業發

達し斯業戸數を增加するに至れり生產總類は九萬百六十一圓にして工產五萬二千六百九十四圓農產三萬二千八百三十八圓畜產四千二百五十九圓水產三百七十圓生產總額一戸當二百五十一圓八十五錢一人當四十二圓二十九錢とす

齡學兒童數は四百十人あり小學校は日詰尋常高等小學校一校にして同町の北端に在り面積四千百餘坪を占む位置北に偏する嫌あれども地勢高燥開濶にして又校地の完整せること郡內に其の比を見ず元日詰町外五ケ村組合立紫波高等小學校の校地校舍を襲用したるものにして校地を擴張し校舍に大修繕を加へ又增築工事を行ひ大正二年十月竣功を告ぐるに至れり現在兒童數は三百七十七人尋常科は六學級にして一學級平均兒童五十六人高等科は一學級の編制なりとす教育費は二千四百二十一圓にして一戸當六圓五十四錢四厘兒童一人當六圓四十二錢一厘とす

紫波郡役所、日詰警察署、盛岡區裁判所郡山出張所、盛岡銀行郡山支店、馬檢場等は同町に在り

古館村

古館村は東は北上川を隔てゝ長岡彥部の兩村に對し北は德田村に南は日詰町に西は不動水分の兩村に隣す志波城址の所在地なるを以て歷史上の沿革に富む地勢概ね平坦にして殆ど耕地より成る只東西隅に志波城址の高丘ありて其の陵線西に走り松林所々に散在す國道附近より北上川沿岸に至る一帶は地味肥沃にして鐵道線路以西は粗惡なるが如し南北二十三町東西一里二十町面積〇、六一方里なる小村にして二日町新田、中島、陣ヶ岡、高水寺の四ヶ大字より成り戶數二百三十五戶人口千六百十五人あり耕地は田百九十二町九反歩畑百九十一町五反歩山林は五十一町九反歩原野六十三町にして國有山林三町四反歩同原野二町八反歩とす

學齡兒童數は二百九十一人小學校は古館尋常高等小學校一校にして現在兒童數二百五十二人之を五學級に編制す

德田村

德田村は東は北上川を隔てゝ長岡、乙部の兩村に對し西は不動煙山に北は見前村に南は古館村に境し一望坦々たる平野にして殆ど田地より成り本郡有數の農村たり又國道

は中央を貫通し交通運輸頗る便なり東西約一里南北壹里二十三町面積一、七一方里あり戶數五百二十九戶人口四千百六十六人を有す耕地は田六百六十三町歩畑二百九十六町二反歩山林は四町四反歩原野二十四町六反歩にして耕地反別の多きこと本郡町村中第二に位す

學齡兒童數は七百六人にして學校は德田尋常高等小學校と一分教場とあり在學兒童數は六百十人之を本校十學級分教場三學級に編制す郡內最多學級の小學校なりとす

見前村

見前村は本郡の北端に位し北は岩手郡本宮村に東は北上川を隔てゝ岩手郡中野村に南は德田村に西は飯岡村に境し里餘にして盛岡市に達す土地平坦にして且つ地味豐沃なるを以て園藝盛に行はれ盛岡市に近邇せるを以て同市蔬菜供給地たり近時騎兵旅團の岩手郡に設置せらるゝや其の需用頓に加はり隨て其の產額を增すに至れり東西二十八町南北一里六町面積〇、八〇方里ありて東見前、西見前、津志田、三本柳の四ヶ大字より

成り戸數四百二十四戸人口三千四百二十七人あり耕地田四百三十一町四反歩畑二百一町歩山林は二町九反歩原野十町五反歩とす

學齡兒童數は五百三十二人にして見前尋常高等小學校と二分教場とを有し現在兒童數は五百四十人之を本校七學級分教場二學級に編制す

飯岡村

飯岡村は本郡の北部に位し東は見前村南は煙山村西は岩手郡御所村に西北は同郡太田村に接し盛岡市と相距る僅に三十町とす西北隅は山丘相連れども概して平坦にして鹿妻用水堰の灌漑地域廣く加ふるに地味沃饒なれは豐田遠く連る面積二、〇二方里にして上飯岡、下飯岡、羽場、飯岡新田、湯澤、永井の六大字より成り戸數五百四十九戸人口三千六百八十九人あり有租地は田七百五十七町二反歩畑四百四十七町歩山林は二百七十町五反歩原野百八十八町歩にして耕地反別の多きこと本郡第一に位し國有山林五百六町歩原野一町三反歩とす

住民は農を以て業とし副業として藁細工を奬勵し今や其の產額二萬圓に達し本郡藁製

品の八分を占め其の製品は多く北海道に販路を求む

學齡兒童數は六百八十八人小學校は二校あり一は飯岡尋常高等小學校にして兒童數四百二十三人之を七學級に編制し一は永井尋常小學校にして兒童數百五十五人之を三學級に編制す現任飯岡尋常高等小學校長川村修藏氏は同村の漸次疲弊に傾くを憂ひ之を救濟するの道實業思想の涵養にありとなし一町歩餘の農園を設置し青年團の施設と相待ちて鋭意農村的教育に盡瘁しつゝあり

煙山村

煙山村は本郡の西北部に位し東北鐵道は東端を北走し盛岡市を距る三里東は鹿妻堰を以て德田村に境し西は南昌山々脈によりて岩手郡御所村に接し南は不動村に北は飯岡村に連り東北の一隅は小丘をなして見前村に界し西方岩手郡との境を畫する所陸奥山脈の支脈（南昌山脈）によりて高地をなせるも鹿妻堰岩崎川の流域は平坦にして同村の主要生產地なり面積は一、九〇方里にして大字は廣宮澤、煙山、赤林、又兵衞新田、北矢幅、南矢幅、上矢次、下矢次より成り戸數四百六十六戸人口二千九百七十三人を有

し耕地は田四百七十九町歩畑五百六十七町歩山林は百八十三町四反歩原野三百九十二町二反歩國有山林は千九町歩同原野十三町六反歩とす

學齡兒童數は五百五十一人にして小學校は煙山尋常高等小學校一校あり元矢次尋常高等小學校と稱す現校舍は大正二年十一月の建築にかかり其の工事費九千餘圓郡内小學校舍中完備せるものの一とす現在兒童數四百七十六人あり九學級に編制す

不動村

不動村は本郡の西部に位し北は煙山村に接し東は德田村南は古館村水分村に接し西は岩手郡御所村に境す東根山脈の支脈金壺山城内山白澤森の一脈と田澤山北谷地山の一脈及び陣ヶ岡の一脈等との間に狹まりたるの地にして大白澤太田川等の溪流東に進み用水堰此の溪流の間を連絡し耕地は中央に開く面積一、二一方里岩清水、室岡、太田、白澤、北傳法寺、和味の六大字より成り戸數四百三十二戸人口三千二百七十八あり耕地は田五百二十六町一反歩畑二百五十八町七反歩山林は二百八十五町一反歩原野四百二十八町五反歩とす

學齡兒童數は五百二十七人小學校は不動尋常小學校一校を有す同校は明治三十四年北傳法寺白澤兩尋常小學校を併合し之に高等科の教科を併置したるものなり現在兒童數四百八十一人あり九學級の編制とす

水分村

水分村は東は古館村南は志和村西は岩手郡御所村北は不動村に圍まる西部は東根山脈の諸峯凸凹起伏して嶮峻なれども東南部は平坦にして田圃開けたり東西三里十町南北二十五町面積一、三〇方里ありて上松本、下松本、小屋敷、吉水、南傳法寺、宮手、升澤の七大字より成り戸數三百八十六戸人口二千八百十一人あり

耕地は田四百七十一町一反歩畑二百六十九町七反歩山林は二百八十七町八反歩原野八十二町六反歩國有林野は千百四十一町歩とす

住民は農を以て生業とするところなりしが近時副業として疊表製織の業盛に行はれ本郡の特產なる紫波表(疊表)及び莫蓙は重に本村の產にして其の產額三萬圓を超ゆ

學齡兒童數は四百五十一人ありて小學校は水分尋常小學校あり明治二十年松本小學校

及南小學校を併せて小屋敷小學校と稱し同二十二年更に宮手小學校を合併し同二十五年位置變更を行ひ幾多の變遷を經て現小學校となる在籍兒童數は三百七十三人あり七學級に編制す

志和村

沿革の章に叙せし如く本郡は元南部信直の所領たりしが南部重信に至り本郡七十五村の内（土館、稻藤、上平澤、片寄）の四箇村を分ちて其の弟南部直房を封じたり此の四箇村は即ち現在の志和村にして明治二年八戸藩に屬し四年八戸縣に屬し更に弘前縣に屬し同年十一月盛岡縣の所轄となり同五年一月岩手縣の所轄となり戸長役場等の制度を經町村制實施に當り併合せられて志和村となりしなり

同村は本郡の西南隅に位し南は稗貫郡好地村に連り西北は岩手郡御所村北は水分村東は赤石村に境し地形東西に長く南北に短く西北隅一帶の地は山嶽重疊し其の主峯獅子臥岳權現岳は大字土館の西方に屹立して稗貫郡に跨るありと雖東南の地は肥沃にして田圃遠く開け廣漠たる北上平野の一部をなす面積二、七二方里上平澤、土館、稻藤、片

寄の四箇大字より成り戸數七百五十一戸人口五千四百四十三人を包有す

耕地は田七百五十三町七反歩畑三百九十八町六反歩山林は八百五十一町五反歩原野百二町三反歩國有林は三千二十六町同原野二反歩を有し本郡中最大の農村なりとす

學齡兒童數は八百九十四人にして小學校二校一分教場あり一は上平澤尋常高等小學校にして大字上平澤に在り現在兒童數三百六十一人之を本校七學級分教場一學級に編制す一は片寄尋常高等小學校にして大字片寄にあり現在兒童數三百二十一人之を七學級に編制す

赤石村

赤石村は本郡の西端に位し北は日詰町に接し東は北上川を隔てて彦部村に對し南の一角は稗貫郡好地村に接し東北は志和村に圍繞せられ西北隅は僅に水分村に接す地勢概して平坦なれども大字平澤の南北部には志和村より連亙せる丘陵ありて大字北日詰南日詰の幾部を走り又大字犬淵と稗貫郡との境をなせる丘陵あり此等の丘陵中には耕地散在するに過ぎざれども北上川沿岸の如きは肥沃にして最も耕耘に適す東西一里十五

町南北一里三町面積一、三四方里餘とす大字は北日詰、南日詰、犬淵、平澤、櫻町に分れ戸數四百二十六戸人口二千九百九十八人あり耕地は田四百八十八町九反歩畑三百五十四町七反歩山林は百五十七町歩原野七十四町歩にして國有山林八反歩同原野三町三反歩とす

學齡兒童數は四百八十八人にして不就學兒童數は僅に四人を存するのみ小學校は赤石尋常高等小學校と一分教場ありて本校は大字南日詰に分教場は大字平澤にあり在籍兒童數は四百三十人ありて本校は七學級分教場は二學級の編制なり

彦部村

彦部村は東北は長岡赤澤の兩村に境し南は佐比内村及稗貫郡新堀村に接し西は北上川を隔てて日詰町及赤石村に對す地勢は南北に長く東西に狹くして帶狀をなし赤澤村と長岡村との境には五ッ森黑石山等の山丘あれども北上川に沿ひたる一帶は平坦にして水田遠く開け農耕に適す彦部川は其の源を赤澤村より發し佐比内川と合して北上川に注ぐ東西二十町に過ぎざれども南北約二里に亙り其の面積一、〇一方里ありて彦部、大

卷、星山、犬吠森の四大字より成り戸數三百七十戸人口二千七百四十三人あり耕地は田三百三十七町八反歩畑二百十二町七反歩山林三百四十七町歩原野二百七十三町四反歩とす耕作業は主要生業にして殆ど之に依りて生活を營むの狀態なりしが近年蠶桑の業發達するに伴ひ養蠶を副業とするもの漸く多からんとす生產物の重なるものは米にして麥大豆之に亞ぎ其の產額七萬五千八百十六圓を占め其の他は畜產二千三十二圓林產千五百六十三圓水產百三十二圓工產九百五十圓にして總額八萬四百九十二圓の生產あり一戸平均二百十七圓五十五錢一人當二十九圓三十四錢とす

學齡兒童數は四百六十三人就學兒童數は四百六十一人あり小學校は二校を有し一は產部尋常高等小學校にして大字暮坪に在り校舍は元同字定内にありしを大正二年四月高等科を併置し同年十一月現位置に移轉し校舍を增築せり現在兒童數は二百七十人之れを七學級に編制す一は星山尋常小學校にして大字犬吠森に在り兒童數百二十七人ありて二學級に編制す同村經濟狀態は漸次疲弊に傾き住民の所有土地は他町村民の有に移れるもの尠からざるを以て村當局大に考慮する所あり之が防止策を立案して村會に諮

りたるに滿場の容るる所となる即ち住民にして所有土地を賣却せんとする者あるときは村基本財産を以て之を買收し十箇年以内に元價にて買戻し得べき條件を附し且つ其の小作料は年の豐凶に關はらず地租及其の他の公課金に相當する額の外賣買價額の年利六分五厘の割合を以て元地主に小作せしめ以て農民を保護し一面には俵米品評會を開催して產米の改良發達を圖り又重要物產增收競進會規程を制定して大正五年より向五箇年間毎年重要物產增收競進會を開催優良出品物を模範として之に傚はしめ以て農業の改良進步を圖り生產力の增進を期し溜池を築造して水田の灌漑を便にし村是調査を實施して村是の確立を期すること等なりといふ參考の爲め腹案中に係る村是調査の目次を左に掲ぐ

村是調査目次

總論ノ部

第一　地理及沿革
第二　氣候
第三　土質及水利
第四　交通
第五　職業別戶數及農勞働者
第六　土地及耕作ノ狀況
第七　財產
第八　負債
第九　諸稅負擔額附諸稅滯納者
第十　教育ノ程度及其ノ狀況
第十一　衞生ノ狀態
第十二　勸農ノ施設

經濟ノ部

甲　收入

第一　農業收入
第二　畜產收入
第三　林業收入

第四　水産收入
第五　工業收入
第六　商業收入
第七　雜業收入
第八　副業收入
第九　勞働賃錢
第十　産出肥料
第十一　本村民ノ他町村ヨリ受クル小作料
第十二　公債株券貯金及貸金利子
第十三　雜收入

乙　支出

第一　生計費
第二　冠婚葬祭費
第三　交際費
第四　教育費

第五　衞生費
第六　農産生産費
第七　報酬及賃銀
第八　諸税負擔額
第九　本村民ノ他町村ニ支拂フ小作料
第十　借金利子
第十一　雜支出

丙　收入支出一覽表

丁　收支戸口當

參考ノ部

第一　地主ト小作人トノ關係
第二　人情風俗及習慣
第三　神社及宗教ト農民トノ關係
第四　農民勞働ノ狀況
第五　農民生計ノ度合
第六　諸組合規約

第七　雇人及賃銀
第八　金融
第九　農工資金企畫事業ノ狀況
第十　農民物品賣買ノ狀況
第十一　土地ノ賣買
第十二　田畑境界及灌漑排水ニ關スル習慣
第十三　農業教育ヲ受クル者ノ狀況
第十四　既往凶歲ノ狀況附凶歲豫備ノ方法
第十五　田一反歩ニ於ケル地主自作農及小作農收入
第十六　農具
第十七　重要農產物
第十八　食蠶
第十九　畜產業
第二十　林業
第二十一　副業

將來ノ部

第一　總說

イ　土地及人口
ロ　經濟的狀態
ハ　社會的狀態

第二　村是ノ設定（調査前ナルヲ以テ本項ハ一例トシテ附記シタルモノトス）

甲　必行事項

一　產米ノ改良增收ヲ圖ルコト
二　養蠶ヲ奬勵スルコト
三　菓細工ヲ奬勵スルコト
四　產業ヲ奬勵スルコト
五　大豆及大豆ノ增收ヲ圖ルコト
六　何々

乙　奬勵事項

一　産業組合ノ活動ヲ圖ルコト
二　耕種法ノ改良ヲ圖ルコト
三　牛馬耕ヲ奬勵スルコト
四　村農會ノ活動ヲ圖ルコト
五　何々

第三　結　論

佐比内村

佐比内村は本郡の東南隅に位し東南は稗貫郡内川目、龜ヶ森、大迫の町村に境し西北は彦部村赤澤村に隣す地形長方形にして南北稍短く村内山峯溪谷相連り耕地は其の間に散在す佐比内川は本村の中央を貫流し字増ヶ澤、平栗、砥ヶ崎より發する諸川を合して彦部村に入る本村の水田は殆ど此の川の灌漑する所なり、面積一、九四方里あり大字の設なく戸數二百六十戸人口千八百七十一人あり耕地は田百三十七町九段歩畑二百四十三町歩山林は七百七十五町原野三百二十七町歩にして國有山林は千百三十五町二

段歩とす住民は概ね農を以て生業とす近年石灰製造の業に從事するもの増加し其の勞銀の爲に金融の圓滑を得ること尠からず又遠野街道開通せられてより運輸の業を營むもの年を追うて増加の傾向あり本村生産額は五萬六千六百十三圓一戸平均二百十七圓七十四錢一人平均三十圓二十六錢とす

學齡兒童數は二百九十五人あり小學校は佐比内尋常高等小學校にして字芳澤にあり大正五年四月高等科を併置す現在兒童數は二百七十四人五學級の編制なり

赤澤村

赤澤村は本郡の東部に僻在し東は稗貫郡内川目村に南は佐比内村西は彦部村北は長岡村に境し四周山を繞らし大字の如きも山脈を以て自然の界と爲し耕地は其の間に介在するのみ郡内他町村に比し交通最も不便なり面積三、五一方里大字として赤澤、船久保紫野、遠山、北田、山屋の六部落あり戸數三百三十四戸人口二千六百六十七人を有す耕地は田二百二十八町歩畑三百九十八町四段歩山林は二千四十一町歩原野九十八町歩にして國有山林は千五百七十二町七段歩とす

生業は農業にして近時蠶業の有利なるを認め副業として營むもの增加の傾向を呈す生産總額は九萬一千八百七十圓を算し一戸平均二百七十五圓六錢一人平均三十四圓四十五錢とす學齡兒童數は四百三十一人あり小學校二校と分敎場一あり赤澤尋常高等小學校は大字赤澤字駒場に在り現在兒童數二百六十一人を本校四學級分敎場二學級に編制す北田尋常小學校は大字遠山字新坊に在り同校は從來單級なりしが大正三年二學級に編制す現在兒童數八十七人あり大正二年校地を現位置に變更して校舍を改築せり

長岡村

長岡村は北は乙部村東は赤澤村南は彥部村に境し西は北上川を隔てゝ德田、古館の兩村に對す東半部は小山脈を以て掩はれたれども西部北上川に接したる一帶は平坦にして地味沃え農耕に適す東西約二里南北約一里十二町其の面積一、九四方里あり東長岡、西長岡、犬吠森、草刈、江柄、栃內、北澤の七部落より成る之を大字とす戸數は二百七十九戸人口は二千三百三十三人あり耕地は田二百二十町六段步畑二百四十八町四段步山林は五百十八町三段步原野百七十五町二段步にして國有原野一段步を存す

農業は同村の主生業たり近年副業として蠶業を營むもの多きを加ふるに至れり農產六萬八千四百十八圓畜產二千七百八十六圓林產四千百六十二圓工產三百四十一圓生產總額七萬五千七百七圓にして一戸平均二百七十一圓三十五錢一人平均三十二圓四十五錢の生產力に當る

學齡兒童數は三百六十六人とす小學校は一校にして同村中央にあり長岡尋常高等小學校と稱す同村は從來尋常小學校のみにして高等科就學兒童は日詰町外五箇村組合立紫波高等小學校に通學したりしが大正二年三月同組合解散せられたるを以て高等小學校設置の必要生じ大正四年四月高等科併置を行ふ在籍兒童數は二百九十人ありて七學級に編制す校舍は高等科併置の結果狹隘を感ずること大なるを以て大正五年度より同六年度に亙る繼續事業として金八千圓を投じ一大校舍を建築せんとて目下計畫しつゝあり

乙部村

乙部村は本郡の東北隅に位し東北は岩手郡簗川村中野村に南は赤澤長岡の兩村に境し

西は北上川を隔てゝ德田見前の兩村に對し東南北の三方は山脈に圍まれ又村内所々に山丘あり即ち東南には黑森山あり東北境には鬼ヶ背山あり其の他朝島山等相連るも北上川に沿ひたる地方は地味肥沃にして最も園藝に適す

面積は三、二一九方里乙部、手代森、黑川、大萱生の四大字より成り戸數五百八戸人口四千二十三人とす耕地は田五百五十町八段歩畑四百二十三町九段歩山林は二千百二十七町歩原野二百四十三町八段歩にして國有山林七百二十町七段歩同原野一段歩とす

住民は耕作業を主とし養蠶園藝之に次ぎて行はれ本郡の特産なる甜瓜は重に本村の産にして其の産額一萬六千圓に及ぶ農産十三萬八千二百十圓畜産四千九百七十二圓林産一萬四千七百七十五圓鑛産二十二萬八千七百六十八圓水産六百六十八圓工産二千八百十八圓生産總額三十九萬二百十一圓にして一戸當七百六十八圓十三錢一人當九十七圓とす

學齡兒童數は七百二十三人にして小學校三校之に各實業補習學校を附設す乙部尋常高等小學校は大字乙部に在り明治四十四年現在の位置に移轉して校舍を改築したり兒童

數二百二十二人あり四學級に編制す大萱生尋常小學校は兒童數百五十五人あり三學級編制とす同校は大正元年以來二學級編制なりしが大萱生金山の發展に伴ひ兒童數著しく增加するに至り大正四年校舍を增築し同五年四月三學級に編制す手代森尋常小學校は明治四十二年黑川尋常小學校を合併し現在兒童數二百五十四人大正四年四月以來五學級に編制す

九名勝舊蹟

日詰町

御畫休所趾 明治九年 明治天皇東巡の際七月六日驛を同町金子七郎兵衞宅に駐められ御午餐を召され古書畫古器什若干古刀二口叡覽あらせらる此の時紅絹一匹金五拾圓を賜はる 同十四年北巡の際八月十九日復た驛を駐められ紅白絹二匹金參拾圓を賜はる

勝源院の槲 勝源院の庭前に一株の槲樹あり周圍十四五尺の巨幹にして地上僅に數尺

の高さに至り四幹に岐れ蜿蜒蟠屈して四方に開展し南北十餘間東西七、八間鬱然とし
て地積七八十坪を蔽ふ年所を經たる幾百年なるを知らずと雖老幹舊枝苔蒸して雄風英
姿人を壓し稀有の偉觀たりされば其の名遠く傳はり來り觀るもの多し

半水翁の句碑　故木村文吾氏は日詰町寺小屋の師匠たりしが小學校を設くるに及び引
續き教職に從事し日詰小學校最初の教員たり俳諧に長じ雲庵半水と號し宗匠として多
くの門弟を指導す明治二十三年秋　明治天皇陸軍大演習御統監のため京都に幸し給ふ
に當り知府俳匠岱山に命じ俳句を四方に募る鉅公名匠村叟商婦詠する所凡三萬五千餘
首を得て乙夜の覽に供す半水の句亦三才の選に膺る碑面刻せる「たゞずめば春風寒し
隅田川」即ち是なり詞彩遒麗なるにあらずんば安んぞ此の光榮を受くるを得んや氏は
啻に陸中俳壇の雄たるのみならず實に東北の鎮たりしなり門弟等相謀り碑を勝源院老
槲の下に建て以て俳名を後昆に傳ふ

觀音の碑　勝源院境内に一基の古碑あり自然石にして高さ約四尺碑面刻する所三箇の
梵字と年月日(天元三年七月十一日)とにして此の地方の石碑として最も古きもの梵字

は三觀音を表はせるものなりといふ明治七年西有穆山同院に滯留の際志波城址に登り
頂上より發見したりしをこゝに移し祀れるなり

古館村

志波城趾　志波城は高水寺城又は比爪館(樋爪館にも作る)又郡山城と稱し現今は古館
と稱し俗に城山とも曰ふ城墟は同村大字二日町新田字古館に在り國道の東二町餘にあ
る高丘即ち是なり桓武天皇の朝東夷騷擾し征討屢なり延曆十五年坂上田村麿陸奥出羽
按察使兼陸奥守鎮守府將軍となり尋で征夷大將軍に拜せらる二十年蝦夷また反するや
命を受けて之を討ち夷地を平げて凱旋す二十一年膽澤城を築きて蝦夷を鎮壓し二十二
年更に鎮所を築きて夷狄をして再び窺ふの餘地なからしめんとせり是れ即ち志波城な
り此の重鎮たりし志波城は僅かに九年にして水害のために遷移したりしが其の何れの
地に移りしやは詳ならず
後三年の役藤原清衡、源義家に屬して功あり亂平ぎて後陸奥六郡の地を領し押領使と
なり平泉に居る其の孫樋爪太郎俊衡志波城を構ふ是に於て荒廢殆ど四百年にして再び

一方に重きをなすに至れり文治三年平泉にては清衡の孫秀衡卒し秀衡の子泰衡繼ぐ泰衡速に義經を殺さざりしを以て源頼朝之を辭として同五年泰衡を討つ此の役俊衡一族と共に城を燒きて逃れたりしが幾許ならずして頼朝に降り再び館を修めて此の地に止まることを得たり

樋爪氏の館址を修めたる繼續者を斯波氏とす延元年中足利尊氏の族斯波家長在城せり斯波氏の初めて居をここに構へし主祖及其の年代に就きては諸説ありて一ならず天正十六年斯波氏南部信直と戰ひ遂に沒落せり其の間の世代事歴に就きても何等の據るべきものあらざるが如し

斯波氏の居館南部氏の手に移るや南部氏は城代を置きたり斯く南部氏の領土南に擴張するに及び信直の子利直盛岡城を築きて居城三戸より移居せしが城壁水害を被り寛永三年避けて志和城に移りたり盛岡城の改修成り次代重直盛岡に歸りし後は再び城代を置きしが德川家康諸侯に令して諸城を毀たしむるに及び由緒深き城廓も寛文五年全く毀たれたり

城地は現時耨せられて畎畝となる頂上には老杉數章と礎石と認めらるる數個の巨石を殘すのみなれども其の地形を按ずるに往時要害の地として一方の巨鎭たりし雄姿の跡歴然たり頂上に登れば四方數里の間一眸に集まる故に登臨するもの多し

走湯神社 天忍穗耳命を祭り同村の村社にして志波城址の西麓に在り伊豆の走湯より伊豆山神社を勸請したるものなりといふ社殿壯麗ならずと雖境内老樹天に參し奇岩其の下に介在し神苑の風致自ら備はり人をして崇敬の念を湧起せしむるに足る

東鏡云文治五年九月九日丙寅今日二品猶逗二留蜂社一而其近邊、有レ寺曰二高水寺一是爲二稱德天皇勅願一諸國被二安置一一丈觀自在菩薩像之隨一也云云中略高水寺鎭守奉レ勸二請走湯權現一其傍又有二小社一號二大道祖一是清衡勸請也 此社後有二大槻木一二品莅二彼樹下一稱二奉走湯權現一令レ射二立上箭鏑一二給下略

高水寺址 高水寺(又は高清水寺)は同村大字二日町新田字古館に在り志波城墟の北麓にして國道を距る二町餘神護景雲二年稱德天皇勅願のため建立せるものなり當時の宗派明ならざれども天正以後は眞言宗たり往時は伽藍壯大奥州の名刹として其の名遠近

に聞え歴代の領主亦尊信厚かりしことは各種の舊記錄によりて明なり建久年中平泉の殘黨叛亂の時兵火のために烏有に歸し後再建せられたりと雖往時の如き大伽藍にはあらざりしが如し寛永三年岩手郡三割村に移され僅に觀音の古堂を存するのみ當國七番札所にして遺物として觀世音像及額面あり

觀音像は稱德天皇勅願のため安置したるものにして兵燹の厄に逢ひ其の燒殘りたるを本尊として現今の觀音堂に祭りたりしが今は僅に其の右腕を存するのみ額面は長さ一尺九寸幅一尺四寸にして正三位菅原長材が觀世音菩薩と書せるものなり寛永三年岩手郡三割村に移さるる以前より存せるものなりと傳ふ

矢立の槻　觀音堂に隣接して高水寺の鎮守社として勸請せられたる走湯神社あり其の境内入口の左側に槻樹あり高さ約五丈周圍目通一丈七八尺の巨木にして今は枝葉の大部分枯損し樹幹の内部亦殆ど朽腐するに至れり文治五年源頼朝陣ヶ岡滯陣の際箭鏑を射立てたるを以て矢立の槻の稱ありと云ふ

吉兵衛館　志波城の南一條の細路を境して小陵を分てり之を吉兵衛館といふ古館村地

内に屬す之に登れば日詰町眼下に在り高田吉兵衛十四五年間の居所なり吉兵衛幼名辰千代南部氏の重臣九戸左近將監政實の弟にして元龜三年斯波家政の妹婿となり高田村を領せしにより名を高田吉兵衛と改め今の吉兵衛館に居る後吉兵衛斯波氏と隙を生じ天正十年不來方城主福士淡路に走り南部氏に屬す南部信直大に喜び不來方の南なる中野に居らしむ因つて名を改めて中野修理と云ふ信直中野修理をして福士と共に南方を扼せしめ切りに策を講じ竟に斯波氏を滅せり館址今は畑地となり昔時の名を留むるのみ

承慶橋跡　志波城の東麓より對岸彥部村に通ずる連絡機關として北上川に架橋せる跡あり今猶ほ殘存せる橋脚及川中の巨石等を認むるを得べし

弘化元年四代金子七郎兵衛從四位少將南部美濃守鶴堂公より工事の奉行を承り私費を投じて架橋せるものにして承慶橋と稱す後十一年を經て安政元年六月十四十五日の大洪水のため流失の厄に遭ふ

此の橋は南部氏志和稻荷參拜の砌郡山驛を經て長岡村八坂神社へも參拜したるものに

て其の際の御成橋として築構せるものなりと云ふ

德田村

御小憩所跡　明治天皇明治九年東巡の際七月六日及同十四年北巡の際八月十九日の兩度同村大字高田昆善八宅に御小憩ありあらせられ前後二回金帛を下賜せらる

德丹城址　德丹城は同村に在りしものの如くなれども其の城址詳ならず

復軒雜纂云延暦二十二年二月志和城を造られしこと日本記略に見ゆ後記弘仁五年十月の條に膽澤德丹二城　遠去國府　孤居塞表とあり享祿本三代格弘仁六年八月二十三日の官府に停止鎮兵事合一千人膽澤城五百人德丹城五百人などあり志和城は今の紫波郡の郡山なる古城なりと云ふ德丹城は其の北六十町許なる德田村なるべしと

高田館址　同村大字高田小字北田に在り高傳寺附近の小丘之なりといふ

紫波郡地誌云今の高傳寺は其の古址なり天正の頃南部大膳大夫信直の九戸左近將監政實の弟九戸彌五郎其主信直の爲めに斯波氏を圖らんとし僞て斯波氏に降る斯波氏其女を以て之に妻はし本村を與へて此に居らしむ高田彌五郎と稱す後斯波氏の本城

の外郭に遷り又岩手郡中野館に遷る天正十二年之を毀つ

國道並木松　同村を貫通する國道兩側に並木松の老木多く南部の松街道の俗稱に背かず之れ南部重直江戸より下向の際領内を日光街道の如くせんと志し明暦三年栽植せしめたるによる

見前村

見前城址　同村の西南大字西見前に在り天正十四年頃迄は見前若狹の居城なりしが南部氏の所領となるに及びて亡ぶ天正二十年破却せられたれど今猶其の跡を存す此の附近は現今館と稱し戸數十餘戸散在し附近に追手搦手の地名を存す

北野神社　同村大字西見前に在り日本武之命少那彦之命中箇男之命を祭れる村社にして南部家の崇敬厚く寛永二年信濃守利直公鶴紋章付鏡一面を寄進せりといふ

宮崎の杉　同村大字西見前北野神社境内に古杉あり宮崎の杉と呼ぶ太さ四十三尺高さ百五十尺八百年以上の星霜を閲せるものなりと云ふ

大國神社　同村大字津志田に在りて大穴牟遲之命を祭れる村社なり元南部氏居城内に

奉祀したりしが文化二年四月十九日大膳大夫利敬鎮守の神として此の地に遷座し社殿を造營し以後代々の崇敬厚かりしといふ

一里塚　同村に一里塚二あり一は津志田一は小字見前町に在りて何れも國道筋なり共に周圍八十尺高一丈五尺あり慶長九年二月德川幕府東海東山等の諸街道を修繕し一里塚を築かしむ即ち江戸日本橋を基とし七道に亙りて三十六町毎に之を築き塚上に榎を植ゑて目標となしたり爾來引續き諸國に築造したりしが同村の一里塚は明暦三年の築造に係るよし云ひ傳ふ而して一里塚には必ず榎を植うる制なりしといふ

武用辨略に曰く榎は根深くして風に耐へ稍高くして遠く望むべし故に塚に植うと或は云ふ一里塚に木を植ゑて標となさんに松の木は根もろくして風に耐へざれば餘の木を植ゑよとの沙汰ありしに餘の木を「エノ木」と聞き誤りて榎を植ゑたるなりと

飯岡村

飯岡館址　大字上飯岡にあり陸羽中央山脈の支脈東方に突出したる一丘陵即ち是なり文治五年源頼朝、藤原泰衡を討ち曩祖の遺跡を訪ねんがため厨川に至りし時岩手紫波

兩郡境界の守備として飯岡氏を封じたる所なりと云ふ

煙山村

南昌山　同村の西端に屹立し高さ二千七百九十尺あり第三紀の噴出に係る凝灰岩及び熔岩等より成る山中に南昌山神社及び幣懸の瀧笊淵大瀧等の奇勝あり古は德ヶ森と稱したりしを轉化し毒ヶ森と呼ぶに至りしが元祿十六年に藩主南部信思儒臣根市政德が山號を選びて南昌山と稱し記を奉りしに因り南昌山と改稱せり

煙山館址　同村大字煙山に一丘あり煙山館又は城内山といふ頂上に階段の跡を存し僅に其の館墟たるを知る斯波氏の臣煙山山城守の居館にして天正十六年斯波氏の沒落と共に亡ぶ

幣懸の瀧　（矢幅驛より一里十町）南昌山の東麓に山り山の東部に發する岩崎川懸りて瀧をなせるなり上下二爆あり上の瀧は高さ十二尺下の瀧は高さ二十尺幅各十五尺あり瀧々たる素練夏尚涼し傳へ言ふ南昌山に登る樵夫正月八日必ず山神に捧げんとて瀑上の古木に幣を懸けたるより名づけられたるなりと

神居谿　幣懸の瀧を登れば其處に愛すべきは小仙境を見出すべし流を遮りて岩あり芝生の築山の如き岩頂上より洗ひ去らるる樣恰も噴泉に似たり此所を攀ぢて尙進めば更に多くの奇景と美容とに接すべし此の地を稱して神居谿といふ

不動村

岩清水館址　不動村大字岩清水不動堂山の南に岩清水館址あり永慶軍記によれば岩清水右京亮といへるもの斯波氏の郎等たりしが故ありて主を怨み疑を南部氏に通せしかば斯波氏聞きて兵を遣り之を攻む右京亮城を出でゝ迎へ擊ち大いに之を破る時に天正十六年なり今其の頂上は開拓せられて畑地となる

不動尊　同村大字岩清水龍泉寺境內に安置せらるる不動の像は大同二年慈覺大師の作と稱す元勝源寺に安置せられたりといふ勝源寺址は龍泉寺を距る西方二町の不動堂山に在り今舊宮と稱す

勝源寺は斯波氏及岩清水氏の菩提寺なりしが故ありて斯波氏は同寺を同郡土館に移す現時寺屋敷と稱する地是なり後斯波氏及岩清水氏亡び南部氏の所領となるに及び天正

年中南部信直同寺を岩手郡上田村に移したれども不動の像はなほ舊地に安置して數十年の星霜を經たりしが慶長十二三年の頃に至り同寺九世淸酌和尙龍泉寺を建立して同寺に安置せりといふ

傳法寺館址　同村大字北傳法寺の西部に在り山城にして西方は山脈に連れども其の他の三方は坦々たる平地にして地勢峻しからず區劃の整然たる館址なり

古老の說によれば天臺宗八彥山傳法寺のありし所にして其の創立年代を知るを得ざるも全盛時代は聖天社、金比羅社、山神宮、藥師堂、熊野社、辨才天社、釋迦堂の七社及び杉ノ坊、藤ノ坊、竹ノ坊、淸水ノ坊、久坊、東ノ坊、豐坊の七坊館上館下に散在し夷地の聖堂たりしといふ

白澤館址　同村大字白澤字熊田、煙山村に接近せる白澤森の頂上なる天然の丘陵にして附近一帶は松林なり館址南北約二十七間東北約五十間あり紫波郡地誌云天正十五年斯波氏の臣白澤百助之を築きて居城とし斯波氏沒落の後之を毀つと又南部往昔雜誌云斯波氏の近臣細屋某此處に據り南部氏の家臣月戸內膳等に攻められ陷落せりと

谷地館　同村大字太田字谷地に在り現今「やだて」と稱し樋爪五郎俊衡の子太田冠者師衡の居城たりしと東鑑に見ゆ此の地名は館名より出たるなるべしといふ天正の頃は斯波氏の臣太田主殿の居館たりしと傳ふ幕末に及び南部藩士谷地作馬此の館の附近に七十三石の田地を開墾せしを以て其の遺跡崩潰せられ今は其の一部宅地田地溜池となる

森の欅木　同村大字白澤村松雄一郎宅地内に欅の老木あり周圍十八尺餘高さ五十一尺を超ゆ傳稱す六百年前松村氏の祖先が三戸より此の地に移住せしとき植うる所のものなりと

本淨寺の杉　不動村大字室岡に本淨寺あり境内に高さ五十尺周圍十四尺餘の老杉あり三百年以上を經たるものなりといふ

水分村

志和稻荷神社　（日詰驛を距る西約二里）同村大字升澤に在り倉稻魂命を祭れる村社なり天喜五年源頼義陣ケ岡に陣せしとき之を創建し而して文治五年源頼朝再建せりといふ延元年中斯波氏志和城に居り四近の地を經略するに及び同社其の所領となりしが後

南部氏が斯波氏を滅し社地亦其の領に歸するや藩主の崇敬深く慶長十四年十月二十四日社領二十四石八斗三升を寄進し同十七年十月十三日猶二十石加增同十九年十月十六日更に十石五斗四升に加增せられしが後數次に百石迄加增せられ加之諸費皆藩費を以て支辨したり祠堂巍然として舊觀を留め參詣日に絶えず明治四十年境内に神苑を設けたれば背後の森欝たる峯巒と相待ちて其の風致自ら塵界を脱す苑内に老杉あり神木と稱す周圍三十尺高さ約百二十尺あり

水分神社　（志和稻荷神社の西北約十五町）同村大字小屋敷東根山麓なる村社にして傳へ言ふ齊明天皇の五年阿部比羅夫東夷征討に際し此の地を相して武甕槌命を常陸の鹿島より經津主命を下總の香取より勸請せしものに係る寶龜、天應年間持節征東大使陸奥按察使として東夷征討に向へる藤原小黑麿深く之れを崇敬し又延暦年中征夷大將軍として下向せる坂上田村麿も尊信厚かりしと社後には水分山の中腹より清泉滾々として湧出し懸りて水分瀧をなせるあり境内には天を衝くの老杉森々たるあり而して前面一帶は欝蒼たる松林にして翠蓋天日を覆ふ眞に幽邃森閑を極む

東根山　同村の西端に聳え其の形狀により袴腰及櫛形の別名あり高さ三千六十尺頂上は芝生にして稍平坦なり之に登れば北上平野悉く眼界に入り晴朗の日は遠く羽後の鳥海山を望むべし中腹に巨巖峙つあり高さ五十七尺幅三十尺其の形狀蛇頭に似たりとて蛇石と稱す中腹より少しく下りて風穴あり盛夏攝氏二度に降るといふ

袖瀧　同村大字上松本に在り高さ約五十尺幅約十尺水量多からざれども絶壁より落下する白水上段に於て屈折し更に分れて雙瀑をなす天朗氣清の日は日光水煙に映じて七彩燦爛頗る美觀を極む此の地志和稻荷神社より西北約十町を隔つ

圓門寺の立石　袖瀧より本流澤內川に沿ひて西すること數町右に坂路を登ること少許にして圓門寺平に出づ古昔此の地に圓門寺と稱する寺院ありきといふ此の平の西北二三町にして右方の中腹に巨巖あり立石と云ふ高さ四十尺周圍五十餘尺表面甚しく風化し奇觀賞すべし

陣ケ岡　同村大字陣ケ岡に在り國道を距る西八町青松鬱蒼たる丘陵是なり蓋し陣ケ岡の命名は前九年の役源頼義、義家の滯陣せるに起因すといふ文治五年源頼

朝、藤原泰衡を討つや三十萬の大軍を駐屯し泰衡征討の院宣を此の地に於て受けたり丘上に一小祠あり蜂神社といふ傳へ言ふ義家の勸請せるものなりと今は八幡の社なりとすれど蜂の訓と八の音と同じければ後世かくは誤りしなるべし神社は水分村大字宮手に屬し同村村社なり

大日本史云頼朝次二于陣岡一比企能員宇佐美實政既定二出羽一來會衆幾三十萬泰衡部將河田二郎殺二泰衡一持二其首一詣二陣岡一降頼朝責曰泰衡固在二我掌中一今誅レ之豈假二他人手一哉汝殺レ君以爲レ功罪八虐矣、命斬レ之乃梟二泰衡首一適討二衡一宣旨院宣始到云々

月の輪形　陣ケ岡の西麓に月の輪形と稱する溜池あり昔源義家、安倍氏征討の際此の地に陣したりしが兵馬の飲料を湛へたる溜池に錦旗の日月の徽章映寫せるが爲め軍旗大に振ひたりと云ふ壽永元年鎭守府將軍藤原秀衡此の社に詣で此の吉兆を傳へ聞き溜池の中に日月の形を造りたるもの即ち月の輪形なりといふ溜池は附近田地の灌漑用水を貯溜す

志知村

八幡神社　同村大字上平澤に在り貞觀四年八月山城國男山八幡宮を勸請したるものにして譽田別命を祀る康平五年鎮守府將軍源頼義深く崇敬して賊徒降伏の祈願をこむ南部利直崇敬殊に深く慶長十二年十月二十日祀田三十七石九斗一升を寄進し同十九年十月十六日四十三石四斗一升に加增す明治十八年十二月二十一日鄕社に列せらる

大瀑　（志和稻荷神社を距る二十町）瀧名川の上流に瀑布あり大瀑と云ふ高さ五十六尺幅十尺餘岩石に激し數段に折れて潭に落つ各折名稱あり、あぶく瀑、三の瀑、二の瀑、一の瀑と云ふ峯巒四周碧潭底を見ず人をして蛟龍の潛伏を想像せしむ

新山神社　（日詰町を距る二里半）同村大字土館に在り境內老杉蓊鬱森嚴を極む元深山權現と稱し倉稻魂命を祭る文治建久の頃源頼朝の臣小山朝祐創建せしものなりと云ふ後火災のために當時の堂宇悉く灰燼に歸したるは惜むべし藩主南部利直崇敬厚く元和二年七月二十三日社領二十石を寄進し寛文十二年閏六月六日更に百石を加增し都合百二十石を寄進せり所藏の掛佛及び古鏡は臨時全國寶物取調委員の鑑定を經全國寶物參考簿に登錄せられ大正四年十二月四日村社に列せらる

封內志云　新山城府正南　屬二紫波郡一、此山與二南昌山一相並、層々對峙矣、四月雪不二消盡一、曾有故、嶺上營二建權現宮一、靈驗尤新　而每歲祭祠不レ怠　尋常庶民、詣無二間斷一、當山素不レ知二由來一、相傳鷲嶺、姫神岳、早地峯、雖下立二東西北三方一而擁中護城府上、惟以レ闕二南方一處一、祝二此山一而稱二新山一、以爲二四鎭一云、

登錄狀

第八一九號　岩手縣紫波郡志和村　　新山神社

一古鏡　徑三寸二分　重量三十六匁　銅　壹面

一掛佛殘缺　徑二寸八分　重量十六匁三分　壹面

右全國寶物參攷簿ニ登錄ス

明治三十九年十二月二十五日

臨時全國寶物取調局書記　小杉榲邨
臨時全國寶物取調委員　重野安繹
臨時全國寶物取調委員長　男爵　九鬼隆一

吉兵衛館　同村大字片寄字中平に吉兵衛館と稱する館址あり高田吉兵衛の居城たり斯波安藝守の將に高田實連と云へるものあり實連は南部氏の重臣九戸政實の弟にして斯波安藝守に仕へ高田村三千石を賜はり名を高田吉兵衛と改め安藝守の女を娶りしが事ありて主を怨み天正十四年南部信直に降る信直、實連を岩手郡中野村に居らしめて斯波の境を守らしむ天正十六年斯波氏の臣岩清水右京亮信直に降るに及び斯波氏南部氏と兵を構へしが斯波氏連敗竟に滅亡せり信直乃ち高水寺城(志波城)に入りて滯留し制度を定め民を撫育し又實連を城代として片寄村三千石を賜ひ郡名斯波を志和と改む

黄金堂　同村大字片寄に在り東國三十三觀音の第四番に列す弘治年中慈覺大師恐山に詣づる途次此の地に逗まること數日佛像一軀を作りて嘉平治といへるものに與へたるもの即ち是なりと言ひ傳ふ觀音は立像にして高さ五尺五寸欅の白木を以て之を作り幾百の星霜を經たるもの而かも刀痕歴々妙相具足一見其の名工の手に成れるを思はしむ

赤石村

志賀理和氣神社　(日詰驛を距る十八町)赤石村大字櫻町に在り延喜式神名中に其の名

を列せられ又文德實錄に仁壽二年七月正五位を授くとあり今は鄕社たり昔時社後の北上川に大なる赤石あり水波爲に紫色を帶べり領主斯波詮直管内巡視の際之を見て「けふよりは紫波と名づけん此の川の石に打つ波紫に似て」と一首の歌を詠ぜしより斯波を改めて紫波と稱せりといふ俗に赤石明神と稱するも亦これによる境域方一町餘老樹繁茂景致頗る佳なり近年神苑を設け更に一段の風趣を添ふ

赤石の櫻　國道より東數十間にして志賀理和氣神社あり其の通路の兩側に幾十株の櫻樹枝を交へて空を掩ふ何れも數百年を經たる古木にして花時の美觀近鄕に冠絶す

五郎沼　同村大字南日詰に在り此の沼は樋爪五郎季衡幼時游泳の場所なるを以て其の名を得たりといふ沼の大半は埋立てられて水田と變じたれども猶周回十町餘ありて二十餘町歩の灌漑用水池たり

季衡の墓　五郎沼の北端塋域二十餘坪の小丘に自然石の碑五基あり何れも碑文磨滅して讀むべからず僅に三箇の梵字を認むるのみ季衡の墓なりと傳ふ

藥師神社　同村大字北日詰に在る村社なり當社は元藥師堂と稱し其の創建の年代詳な

らざるも小彦名命を祀りたるものにして比爪太郎俊衡同五郎季衡領内守護の神として勸請せるものなりと傳ふ本郡が斯波氏の所領となるに及び代々崇敬する所となりしが斯波氏沒落の後は藩主南部利直の崇敬厚く元和五年七月二十三日社領三十石を寄進し以後社殿の造營等屢なりき

箱清水　同村大字南日詰五郎沼の北約一町國道の西側に湧出する清水にして極めて清冽古來近郷に其の類なく附近の飲料水に供用せらる

古老の語る所によれば此の附近は往昔藤原季衡の邸と覺しく當時此の清水に鶴を飼ひたるを以て鶴清水と唱へしが後年箱清水と稱ふるに至れり藤原氏沒落の際豫て貯へたる夥多の黄金を此の清水の源頭に埋め之れが目標として建てたりと傳ふる一基の石柱あり此の清水の清冽なるは蓋し黄金を埋めたる地中を流れて湧出するに由るなるべしと傳ふ

明治九年　先帝東巡の際日詰町金子七郎兵衞宅に驛を駐め御晝休あらせられし時御茶水其の他の料水に供し奉れり

小路口の松　同村大字南日詰大沼喜右衞門の邸内に在り五郎沼の東國道を隔つること僅に二町建久年間樋爪太郎俊衡の後裔某の植うる所なりと傳ふ慶應元年藩主南部利恭來り覽て金三兩を與へ名を古松園と命ず今猶其の筆する所の「古松園」の額あり松は五葉にして幹圍七尺餘十三枝あり高さ五間東西凡七間南北十餘間に及ぶ

大銀の栂　同村南日詰照井儀藏の庭内に一株の栂あり日詰驛を距る八町餘高さ五間に餘り東西七間南北五間幹の太さ六尺を過ぐ樹齡詳ならざれども二百年を下らざるべしその稀有の樹にして且風致美なるを以て來り賞するもの少からず

數馬の墓　同村大字犬淵と稗貫郡好地村との境なる國道筋を數馬長峯と稱す往時の國道筋は大字犬淵瀧名川橋畔より志和村大字片寄古道を經稗貫郡八幡村光林寺山門の前を過ぎ花卷に通じたりしが元祿十六年東山天皇同時に勅額を賜はりしを以て爾後藩主南部氏幕府に參勤交代の往復騎馬又は乘輿の儘門前を過ぐるは恐懼に堪へずとなし花卷の郷士平澤數馬に命じ瀧名川より犬淵、石烏谷を經花卷に至る約四里一眸一直線の通路を開鑿せしむ竣工に臨み病を以て卒す此の地に墳墓を營みたりといふ

新行坊の舊跡　新行坊は同村大字北日詰の西北隅に在る小字なり昔時此の地に一宇の大伽藍あり山號を新行坊と云へり興廢の年代詳ならざるも當時土賊の暴戻甚しかりしが征討の軍下向に方り賊兵燹に罹り一山の堂宇凡て灰燼に歸す然かも僅に規模を窺ふべかりしに近世開拓して田畑と化し其東北にありし赤井坊、西ノ坊、東ノ坊、下ノ坊、中ノ坊、泉ノ坊、上東ノ坊、下東ノ坊、南ノ坊、上池ノ坊、泉ノ坊、下ノ坊等新行坊の屬坊なる十二坊は現今の小字又は屋敷名となる

牡丹野　新行坊の西南に牡丹野と稱する小字あり往昔本山の座主牡丹花を愛翫すること最も甚しく山門より凡方二町歩の花園を開き之に栽うるに盡く牡丹を以てしたる故現今に傳へて牡丹野と稱すといふ

平澤館址　同村大字平澤字館に在り周圍の塹壕は今田地に變じ北に唐見門の建設あり し跡あり斯波氏の重臣築田大學頭源委房の居館たりしが南部信直斯波の境を蠶食し中野修理を遣はして反間の謀を用ひ斯波の君臣を離間するに及び天正十六年大萱生玄蕃秀清蛟島外記定勝岩清水右京亮泰愛等南部氏に款を通ず同年岩清水右京亮斯波氏に攻

めらるゝや邀へ擊ちて大に之を破る南部信直此の機に乘じ大兵を率ゐて斯波城を掩擊す是に於て斯波安藝守亡ぶ大學頭戰功に依り千石を賜はる

彦部村

是信房の墓　（日詰驛を距る一里十町）同村大字彦部石ヶ森にあり建保三年淨土眞宗開祖親鸞の弟子是信房（吉田大納言信明）師命を奉じて此の地に來り專ら化導に力めたりしが文永三年遷化せしかばこゝに墳墓を營みたるなりその附近に蓮池、腰掛石、佛供水等の舊蹟あり

和漢三才圖會云、吉田大納言信明卿謫二于越前一而後雖二勅免一遁レ世不レ歸聞二鸞師在一二越後一尋行鸞先行二關東一於二常州稻田一爲二弟子一改二名是信房一有二家臣二人（千原長左衞門 橋本作內）隨從而長左衞門亦剃髮號二信圓一於二斯波郡彦部村一文永二年三月二十五日寂今光照寺其遺跡也（作內死子彦部付其子孫相續名作內）是信房師命赴二奥州一弘二宗門一住二和賀郡一柏村一後移二斯波郡石ヶ森一建二一宇一號二本誓寺一自レ此奥州專修念佛法盛行也文永三年十月十四日寂第十六世賢勝天正十二年移二于盛岡一而有二靈寶數多一皆稀世什也

彦部館址　同村大字彦部字機織に在り俗に機織館とも稱す延暦年中坂上田村麿東夷征討の際志波城を築き又同地にも一城を築きて其の一族をして之に居らしめたりと傳ふ天正の頃は彦部新左衞門尉秀光の居城なりしといふ頂上は開拓せられて畑地となれど一見要害の地たるを察すべし

大正園　同村大字大卷に在り館平ともいふ此の地は天正の頃斯波氏の臣大卷氏の居所にして當時大卷館と云ひしといふ塹壕今尚存す西北は北上川を隔てゝ志波城址崛起し又日詰町の街衢長く伸び南は稗貫郡の北上平野雙眸に入り東は峯巒圍繞して屏風の如く北は遠く岩手の秀峯を望む展望の佳なること附近に匹敵すべきものなし大正元年大正園と名づく

堤島神社　同村大字大卷字金矢に鎮座の村社にして柿島姫命を祀る社地は三町餘の面積を有する辨天溜池の内にありて頗る風趣に富む
元祿十二年九月藩主南部信濃守行信の息女光源院の勸請にかかり以後藩主の崇敬厚く享保十三年十二月二十八日藩主より社領五石を寄進せられ又例祭には毎歳祭祀料を下

賜せらる

星山館址　星山館は同村大字星山にありしといへど其の何れの地なりしや明ならず同大字の東部に高屋敷の地名あり或は此の地なるべしとの說あり紫波郡地誌云天正の頃斯波氏の臣星山某の居所なりと

犬吠森館址　同村大字犬吠森字館にあり天正の頃斯波孫三郎詮眞の叔父東民部の居所にして當時東館の稱ありしといふ蓋し志波城の東に當るを以て斯くは名づけたるものなるべし頂上に館森神社鎮座せり

佐比内村

佐比内館址　同村の中央字神田にあり將軍森の稱あり應承年中河村千鶴丸の後裔某居所として築きたるものなりといふ館址の周圍は開拓せられて畑地となる

熊野神社　佐比内館址の頂上にある村社にして伊弉諾命、伊弉冊命を祭る領主川村民部大輔喜代領内鎮守の神として崇敬し社殿を造營したりしが天正年中川村民部沒落し南部彌六郎直榮の領内となるに及び寛永十二年十二月社殿を再興し社領三石を寄進し

たりといふ

岩窟　同村字芳澤に在り洞口横九尺縦一丈二尺奥行二十五尺窟内に觀音の石像あり延暦二十四年五月坂上田村麿の安置せるものなりと傳ふ此の附近一帶の地は石灰岩より威り奇觀賞すべきものあり

赤澤村

赤澤館址　同村大字赤澤字館に在り長櫃山の西北に位し赤澤川その西北の麓を流れ要害の地たり天正の頃斯波氏の臣赤澤某の居所なりしと傳ふ周圍の塹壕の趾尚存す現今頂上の平地は草生地となり其の他は雜木林となる

白山神社　（日詰町より距る東一里半赤澤村々社にして大字赤澤白山（舊名音高山又菸菟多加山にも作る）の頂上に在り永承二年四月八日亙理權太夫藤原經清の勸請に係り伊弉冊尊を祭る南部氏累代の尊崇厚く天正十三年南部信直本社を再建し寛永二年南部利直米三十俵を寄進し又屢寶物の献納等あり

三石の岩窟　（日詰町を距る二里十三町）赤澤村大字赤澤に三石の岩窟あり鐘乳洞（横

穴）にして洞口二箇所に廣場あり奥の廣場には光線の射入達せず只上方山腹に貫通せる小孔ありて晝間幽明を認むるのみ此の種の大洞窟は郡内其の類を見ず

山王の楓　（日詰驛より二里二十町）赤澤村大字北田阿部與次郎宅地内に楓の老樹あり樹齡約三百年高さ十五尺下部の周圍僅に六尺に過ぎざれども上部の太き所は十五尺に及ぶ幹の基部に空洞あり枝條枯損したる所あれども秋霜やうやく繁きに及び絢爛燃ゆるが如き風色の美また言はんかたなし

青麻神社　（日詰町を距る三十町）赤澤村々社にして大字遠山に在り前九年の役源義家の建立せるものなりと傳ふ祭神は國常立尊大日靈尊神日本磐余彦命にして同社に祈願すれば病苦を癒するの靈驗ありとて遠來の參拜者多し

青麻の胎内くゞり　青麻神社の境内に數十年を經たる高さ約三丈の檜の木あり根部より二幹に分れて凡そ七尺の高さに至りて一幹となり略卵形の輪をなす靈木の名遠く傳はり來りくゞるもの多し之を胎内くゞりと稱す

長岡村

八坂神社　（日詰町を距を東北一里半）延暦年中坂上田村麿將軍の勸請せるものにして素盞雄尊を祭る斯波孫三郎詮直及び南部信直の崇敬厚く寛永九年南部氏は社領米十五駄を寄進し安永四年更に十五駄を加增し後社殿の改築修繕しば〳〵なりき明治六年鄕社に列す遠近來り詣づる者尠からず

長岡城址　同村大字西長岡に在り川村千鶴丸の居城なりしといふ千鶴丸は俵藤太秀鄕四世の孫山城守秀嵩の第四子にして加冠して川村四郎秀清といふ文治五年源頼朝の奥州征討軍に從ひて功あり志波郡を領したりといふ

大日本史列傳三河村秀清幼名千鶴丸（東鑑藤原秀鄕後佐藤氏之別族也祖遠義爲二筑後守一父秀高號二河村一爲二山城權守一尊卑分脈父秀高據東鏡）秀清母仕二源頼朝一稱二京極局一治承中秀清兄秀義屬二大庭景親一戰二千石橋山一景親死秀清宇落韜レ名爲二京極局所一鞠文治五年頼朝擊二藤原泰衡一秀清年十三從至二陸奥一泰衡築二壘熱借山一使二庶兄國衡守レ之一、秀清與二二浦義村等六人一夜潛踰二先鋒畠山秀忠營一先登與二葛西清重一同犯レ陣格鬪獲頗多衆兵尋至城陷頼朝聽二其自呼一名字一召二秀清於船泊驛一問レ之知二其爲秀高子一即加二首服於營

中一令加二加美長清加レ冠賜二今名一稱二四郎一下略

耳取の松　同村大字東長岡稻垣盛造庭内に在り寶暦年中栽植したるものなりと云ふ幹の周圍十四尺高十五尺の這ひ松にして老幹古條蜿蜒欝蒼龍蛇の蟠屈するに似たり往時南部藩主の來り覽るもの數次に及べりといふ世之を珍として傳稱す

江柄館址　同村大字栃内に在り天正の頃鄕士栃内源藏の居住せる所なりしが南部氏の臣田村右京吉連攻略せしかば南部氏吉連に與へて居らしめ氏を栃内と改めしむ南に今尚堀の跡を存す東北より見るときは平坦にして更に平地と異ならざれども西南より望むときは一段の斷崖をなして舊館の俤を認むることを得現今佐々木某の居宅たり

栃内館址　天正の頃斯波氏の臣江柄兵部の居所にして同村大字江柄に在り西南は眼下に人家の散在せるあり東は近く大萱生館と相向ひ風景頗る佳なり現今山林となる

乙部村

乙部館址　同村大字乙部の西部字館に在り乙部川の下流北岸に臨める高地にして天正年中斯波氏の臣乙部兵庫之に居る斯波氏亡びて後南部氏其の臣福士左門を置きたりと

傳ふ

菖蒲田の榧　同村大字乙部菖蒲田北田徹夫宅地内に榧あり享保八年に植えたりといふ幹の周圍十尺高さ四十尺餘枝葉繁茂して約七十坪の地面を覆へり結實の多きは優に二石に及ぶと云ふ

野屋敷の梅　同村大字乙部野屋敷佐々木福治宅地内に稀世の老梅あり慶長二年の栽植に係る幹圍十尺强高さ二十尺に餘る枝條枯損し幹また朽ち空洞となれるところあれども花時の風趣徐ろに羅浮の故事を思はしむ

大萱生館址　同村大字大萱生の西部に在り河村千鶴丸の後胤大萱生氏世々之に居り斯波氏に臣事す南部信直斯波の境を蠶食し中野修理を遣はして反間の謀を用ひ斯波氏の君臣を離間せしかば天正十六年大萱生玄番秀清南部氏に欵を通ずるに至る同年斯波氏岩清水館を攻む岩清水右京亮斯波氏の兵を邀擊し大勝を得るや南部信直機失ふべからずとなし大兵を率ゐて斯波城に殺到し斯波安藝守を山王海に追ひ遺領六十六鄕を收む秀清戰功によりて七百石を賜はる

黑川館址　同村大字黑川字田中に在り斯波氏の臣黑川氏の居城なりしといふ前面は斷崖にして近く北上川に臨み背面は山丘に續くの地たり

法領の「タモ」　同村大字手代森法領社境内に「タモ」の木あり周圍二十五尺餘高さ七十五尺餘枝條半ば朽たれども樹幹亭々として中空に蟠り梢頭常に天籟を聞く三百年以上を經たりと傳ふ

陣場　同村大字手代森字上山に在り手代森館と並立し躋攀容易ならず俯仰四周を觀ずれば當年兵馬呼奔の壯忽焉として雙眸に入る天正年間南部氏手代森を征するに方り地勢要害にして正面攻擊の効を奏し難きを察し館と並聳せる丘上に布陣し下瞰して之を攻陷す陣場の名稱是より起るといふ

高陣　同時大字黑川字高陣に在り天正年間南部氏黑川館を征するに方りこの高丘に布陣して居館を下瞰したり高陣の名之より起ると言ひ傳ふ現時春の花秋の紅葉共に興あり殊に頂上は四周の展望絶佳中腹の野は常に青芝なれば遊覽最も可なり

手代森館址　同村大字手代瀧村に在り天正の頃斯波氏の滅亡するに及び之を毀てりと

いふ正面は絶壁をなし數十尺の老杉森々として崖下を圍む以て昔時の壯觀を偲ぶに足る

附表

神社一覽表

町村名	社格	神社名	祭神	備考
日詰町	村社	藥師神社	少彦名命	
古館村	村社	走湯神社	天忍穗耳命	供進指定、會計規定適用
	無格社	木宮神社	迦具土命	
德田村	村社	藥師神社	少那毘古之命 大穴牟遲之命	
	村社	八幡神社	譽田別命	
	村社	稻荷神社	宇迦御魂之命	
	村社	早池峯神社	瀨織津比女命	
見前村	村社	八坂神社	須佐之男大神	
	村社	北野神社	日本武之命	
	村社	大國神社	大穴牟遲之命	
	村社	平野神社	大　雀　命	
飯岡村	村社	多賀神社	伊邪那岐命	
	村社	秋葉神社	伊弉那冊命、伊弉那諸命、宇迦御魂命	供進指定、會計規定適用

煙山村	村社	白山神社	白山比賣命
	村社	大木神社	不詳
	村社	白山神社	伊非那岐命
	村社	熊野神社	伊佐那岐命
	無格社	諏訪神社	建御名方命
	無格社	南昌山神社	於加美命
不動村	村社	大字岩清水熊野神社	伊邪那岐命
	村社	秋津神社	秋津彦命
	村社	木宮神社	迦具土命
	村社	大字白澤 熊野神社	伊邪那岐命
	村社	太田神社	猿田毘古命
	無格社	水分神社	水速女命
	無格社	三島神社	大山祇命
水分村	村社	水分神社	水波熊賣命
	村社	蜂神社	譽田和氣命
	村社	志和稻荷神社	字迦御魂命

供進指定、會計規定適用
供進指定
供進指定、會計規定適用
同　同
供進指定、會計規定適用
同　同
同　同

	村社	熊野神社	伊非諾命
	無格社	古稻荷神社	字迦御魂命
志和村	鄕社	八幡神社	譽田和氣命
	村社	新山神社	倉稻魂命
	無格社	字松本 山祇神社	山津見命
	無格社	字小清水 山祇神社	山祇見命
	無格社	白山神社	伊邪那美命
	無格社	八幡神社	譽田別命
赤石村	鄕社	志賀理和氣神社	不詳
	村社	八幡神社	譽田別命
	村社	藥師神社	少彦名命
	村社	岩手山神社	大己貴命
	無格社	八坂神社	須佐之男命
	無格社	八幡神社	譽田別命
彦部村	村社	愛宕神社	軻具突智命
	村社	堤島神社	嚴島姬命

會計規定適用
供進指定、會計規定適用
同　同
大正四年十二月四日村社昇格
供進指定、會計規定適用
同　同
供進指定
供進指定、會計規定適用
同　同

佐比内村　村社　百澤神社　猿田彦命

村社　館森神社　輕津主命

村社　熊野神社　伊弉諾命

赤澤村　村社　白山神社　伊弉册命

村社　青麻神社　國常立命

長岡村　村社　山祇神社　大山祇神

郷社　八坂神社　素盞雄命

乙部村　村社　館林神社　伊弉册命

寺院一覽表

町村名	宗旨	寺院名	本尊	
日詰町	曹洞宗	勝源院	釋迦如來	供進指定、會計規定適用
	淨土宗東部	來迎寺	阿彌陀如來	同
古館村	曹洞宗	長岩寺	釋迦如來	同
	同	蟠龍寺	同	同
	淨土宗東部	善念寺	阿彌陀如來	

德田村　眞宗東派　本誓寺　阿彌陀如來

曹洞宗　高傳寺　釋迦如來

天台宗　大光院　不動明王

見前村　曹洞宗　清見寺　釋迦如來

飯岡村　曹洞宗道元派　長善寺　同

煙山村　曹洞宗　實相寺　釋迦牟尼佛

不動村　同　龍圓寺　阿彌陀如來

眞宗本願寺派　福泉寺　釋迦如來

淨土宗名越派　誓岸寺　同

天台宗寺門派　明壽院　不動明王

眞宗本願寺派　本淨寺　阿彌陀如來

水分村　眞宗東派　光圓寺　同

淨土宗本部　極樂寺　同

志和村　淨土宗東部　隱里寺　同

同　稱名寺　同

眞宗東派　願圓寺　同

赤石村	淨土宗東部	欣求庵	同	
	曹洞宗	廣澤寺	釋迦如來	
	天台宗寺門派	覺王寺	大日覺王如來	
彦部村	曹洞宗	不動堂	不動明王	
	同	高金寺	釋迦如來	
	眞派本派	長德寺	同	
		正養寺	阿彌陀如來	
佐比內村	曹洞派	千手觀音堂	千手觀音	
赤澤村	同	鳳仙寺	釋迦牟尼如來	
長岡村	同	正音寺	同	
	同	江岸寺	釋迦如來	
	同	常化寺	釋迦牟尼佛	
乙部村	同	大泉院	同	
	同	瀧源寺	釋迦牟尼如來	
	同	如法寺	釋迦如來	

紫波郡青年團體一覽表

所在町村	名稱	事務所	創立年月	團體長氏名	會員數
日詰町	日詰青年會	日詰町役場內	四十一年五月	志村市助	五六
古館村	古館青年會	古館小學校內	大正五年五月	遠藤祿郎	八一
德田村	德田村輸誠會	德田小學校內	四十一年十月	戶塚玉司	一六五
見前村	見前村聯合青年會	見前小學校內	大正三年八月	吉田政吉	二三二
飯岡村	飯岡青年同志會	飯岡小學校內	四十二年十二月	川村修藏	四二六
	永井青年會	永井小學校內	四十四年四月	平館勝承	一二九
煙山村	煙山村青年會	煙山小學校內	大正五年五月	川村兼五郎	二五〇
不動村	不動村進修會	不動小學校內	大正五年四月	齋藤傳藏	一五〇
水分村	水分青年會	水分小學校內	四十二年九月	鷹芳善治	一三六
志和村	志和村青年會	志和村役場內	大正五年五月	細川久	三七六
赤石村	赤石村青年會	赤石小學校內	大正三年十二月	新藤理	二二一
彦部村	彦部村青年團	彦部村役場內	大正五年四月	佐藤定八	二八一
佐比內村	佐比內村青年會	佐比內小學校內	四十四年六月	佐藤龜治	七四

赤澤村	赤澤村青年耕餘會	赤澤小學校內	四十年十一月	遠山慶次郎	八三
	北田保誠青年會	北田小學校內	四十四年四月	諸谷泰明	七二
長岡村	長岡村青年會	長岡小學校內	四十二年一月	江釣子律見	三一
乙部村	乙部村青年會	乙部小學校內	三十九年二月	野中彌右衛門	一一九
	大萱生青年會	大萱生小學校內	四十四年一月	松坂完信	一九
	乙部村自疆會	手代森小學校內	四十三年十一月	市村直躬	九〇
計				十九團體	二、九九一

參考表

紫波郡町村吏員

町村名	町村長	助役	收入役	其他の吏員
日詰町	金子慶之助	内川 康藏	北田政五郎	志村 正松　富山 三郎　阿部秀次郎
古館村	高橋 浩三	水本重右衛門	西村勘治郎	金田儀三郎　横澤 三藏
德田村	中村長五郎	阿部長右衛門	川村幸次郎	宮 仁助　廣田 宮治　齋藤貞次郎　佐々木梅吉
見前村	藤澤丑太郎	藤川 友治	吉田德治郎	栃内 元衛　吉田 專治
飯岡村	星川 近禮	三上善左衛門	田村 元吉	兼平 定衛　佐藤三之助　藤島佐四郎
煙山村	山本善太郎	高橋 才吉	吉田悌二郎	橋 忠治　小笠原謙吉　村松 緊喜
不動村	室月 逢夫	白澤 良三	室月 快孝	石井 勉　藤原 政吉　佐々木哲郎
水分村	佐藤利次郎	鷹木嘉右衛門	西田 四郎	菊池 莊造　鷹木松太郎　榮田與左衛門
志和村	細川 久	堀田 貞藏	熊谷 玉藏	佐藤平次郎　俵 不二郎　熊谷助太郎　小田中三郎
赤石村	大沼 恒八	鎌田 孫藏	瀧浦丹治郎	築田 久作　玉山 正義　長谷川鶴藏
彦部村	佐藤 定八	佐藤善次郎	近谷亥太郎	佐藤善太郎　阿部佐次郎　佐藤 善八　阿部連次郎
佐比内村	柏原 庄太	阿部與次郎	石杜彌太郎	佐々木善治　高橋 直江
赤澤村	似里 常吉	大角久兵衛	梅澤德次郎	田村熊太郎　山田 小藤　大角 忠一

習岡村　阿部　米吉　佐々木哲雄　（助役兼掌）　北田　春松　北館　高實　牛田　庄作
乙部村　北田久五郎　佐々木圓太郎　佐々木初太郎　藤原　石雄　田中　春治　北田　徹夫

紫波郡小學校教員

日詰小學校　川村　孫吉　北條喜一郎　下河原雷太郎　佐藤　とめ　大川　英八
八重島　政記　上田　さだ　内村　みつ　阿部　庄吉　猪原　慶藏
古館小學校　遠藤　祿郎　石杜　辰郎　村川仁一郎　瀨川　政一　照井　とみ
德田小學校　戸塚　玉司　佐藤　民藏　野中　彌助　駒嶺　高直　駒嶺　とね
小田島　とみ　川村　純
菅木　ふみ　小澤　あい
見前小學校　吉田　政吉　小野　省三　千葉　省吾　吉田　たけ
藤澤　元次郎　米田　ふよ　澤田　たき　藤澤　よし
永井小學校　平館　勝承　阿部　由五郎　吉田　たよ　藤澤　文次郎
飯岡小學校　川村　修藏　小笠原　政一　佐藤　泰次郎　星川　とく　江柄　はる
淺沼　甚大郎　小林　みき
煙山小學校　川村　榮五郎　藤井　一三　阿部　元治　北村　高　武藤　市助

不動小學校　本間　龜松　吉田　長吉　内藤　いし　白澤　良八
齋藤　傳藏　吉田　定吉　廣田　勘次郎　齋藤　ひさ　藤尾　太郎
菅原　くら　高橋　岩太郎　鬼頭　さと　彌勒地　善章　菅原　みさを　坂本　鐵治
水分小學校　鷹觜　善治　寶木　長次郎
小川　きく
上平澤小學校　黑澤　重太郎　葛岡　芳郎　阿部　この　小田中　定八　佐久山幸之助
淺利　佐善　入江　泰靜　小田島　せい
片寄小學校　出堀　定光　藤尾　壽治　中島　愛忠　野邊地　うめ　北條　健次郎
島　こと　細川　榮三郎
赤石小學校　新藤　理　前田　俊夫　鎌田　由松　鷹觜　つや　下河原　定治
川村　安之助　工藤　ちよう　佐川　たま　奈知　たつ
彦部小學校　佐藤　金作　川村　武雄　佐藤　すき　大川　ゆき　八重島　孝文　富山　義孝
佐藤　はつえ
星山小學校　佐々木　六郎　作山　なを　阿部　源吉　小原　のぶ　櫻田　あさ
佐比内小學校　佐藤　龜治　松坂　軍治　工藤　惣吉　福田　藤八　山田　はつ
赤澤小學校　遠山　慶次郎　遠山　たろ

北田小學校　阿部與右衛門
長岡小學校　太田　澄　梅木つぎ
江釣子律見　竹内次郎
駒嶺高次
乙部小學校　野中孫右衛門　福田龜吉
大萱生小學校　松坂完信　長谷川兵次郎
手代森小學校　市村直躬　阿部庄三郎

縣會議員

縣會議員　長岡村　藤原理八　藤田利三郎　藤原さめ

紫波郡會議員

日詰町　木村政太郎
古館村　高橋浩三　川村やへの
德田村（郡參事會員）佐藤元吉　高室勘一郎　佐々木よしの
見前村　吉田耕一郎　勝文子ふみ
中里ふみ　藤村正規
同　佐比内村　堀切禮八
飯岡村（議長）小笠原三藏
煙山村（副議長）長沼千代治
下動村　藤原一郎
水分村　武田文良

志和村（郡參事會員）岩泉周甫
志和村　藤尾寛雄
赤石村（郡參事會員）山口泰次郎
彦部村（同上）橋本惣八
佐比内村　佐々木文藏
赤澤村　本間虎太郎
長岡村（郡參事會員）工藤文次郎
乙部村　北田重次郎

紫波郡役所

郡長　吉田一耕　郡書記　下河原菊治　菅原彦作　上田正
藤原英雄　遠山淺吉　佐川盛造　村松十次郎
村松彌助　郡視學　高橋松次郎　農業技手　内田九兵衛　郡吏員　種市愛友
同（兼）村松十次郎　雇　豐山庄一郎

紫波郡蠶業講習所

所長　井上金七　技手　細田龜治　技手　菊池健治

盛岡區裁判所郡山出張所

裁判所書記　菅木亮太郎　雷久保千太郎　佐藤庄右衛門

日詰警察署

署長警部　瀬戸甲一　巡査(部長)　中野勝三　巡査(部長)　八巻武雄

郵便局長

日詰局　馬場靜　德田局　中村石太郎　矢幅局　村松雄一郎

志和局　村井權兵衛　乙部局　佐々木長嗣郎

營業者人名表

町村名	業體	氏名
日詰町	醬油釀造業	平井六右衛門
同	海産物問屋業	合資會社日詰海産物問屋社長渡邊善之助
同	同	佐藤米藏
同	米穀商	長谷川助太郎
同	雜貨商	大森金次郎
同	木材商兼海産物商	渡邊善之助
同	米穀商	志村松藏
同	吳服商	野村定治郎
同	海産物商	咲山榮吉
同	生繭賣買業	岩清水馬太郎
同	米穀商	佐藤萬藏
同	米穀商	佐藤伍平
同	米穀商	野村由太郎
同	海産物商	田村丹次郎
古館村	米穀商	高橋次郎
同	米穀商	高橋仁太郎
同	同	古館酒造合名會社代表者高橋喜六
見前村	牛馬商	藤澤竹藏
煙山村	同	昆源太
同	製氷業	田村伴五郎
同	同	室岡德治
同	苗木商	藤原德次郎

(國稅營業者)

町村名	業體	氏名
同	酒造業	平井長吉
同	米穀商	北栃龜太郎
同	獸皮商	加藤利助
同	生繭賣買業	橋本善太
同	青物商	内川戌松
同	青物果實商	高橋福太郎
同	米穀兼荒物商	渡邊百松
同	吳服商	咲山千代吉
同	同	籏福重助
同	賣藥商	柏葉次秋
同	雜貨商	鈴木要助
同	雜貨商	畠山三太郎
同	吳服商	阿部吉太郎
同	吳服商	鎌田民之助
同	吳服商	猪原清次郎
同	清酒釀造業	横澤德四郎
德田村	吳服商	川村健郎
飯岡村	雜貨商	福井友次郎
同	運送業	横澤長松
不動村	雜貨商	松岡源太郎
水分村	酒造業	廣田喜平治
同	疊表仲買業	熊谷丑松

菅原商店

菅原商店

紫波郡案内 終

同	雜貨商	野村壽松
志和村	清酒醸造業	株式會社村井酒店 代表者村井權兵衛
同	吳服兼木炭商	田口倍次郎
赤石村	請負業	鎌田寅吉
同	製米業	鎌田善作
同	請負業	阿部久兵衛
赤澤村	雜貨商	作山傳藏
同	同	福士雪藏
乙部村	牛馬商	北田重次郎
同	疊表仲買業	細川文治
同	鑄造業	田口季司
同	海產物商	齋藤龜治郎
同	運送業	藤沼朝人
彦部村	牛馬商	上田安藏
佐比内村	石灰製造業	石杜富藏
長岡村	雜貨商	遠山長寛
同	牛馬商	佐々木駒吉
同	請負業	北田重雄

大正六年五月十五日印刷
大正六年五月十八日發行

正價金四十錢

著作兼發行者　嚴手縣紫波郡日詰町　菅原七郎

印刷者　東京市神田區南乘物町十五番地　葛西虎次郎

印刷所　東京神田今川橋　青雲堂印刷所

不許複製

339
939

終